

2025. 9. 6 令和7年度第2回理事会議事録

日 時：令和7年9月6日（土）10:00～16:00  
会 場：東京コンベンションホール 大ホールB  
出席者：下線はWeb参加者（9名）  
理事長：万代 昌紀  
副理事長：鈴木 直、関沢 明彦  
理事：磯部 真倫、井籠 一彦、岡本 愛光、金西 賢治、亀井 良政、川名 敬  
甲賀かをり、小林 陽一、齋藤 豪、齋藤 昌利、角 俊幸、谷口 文紀  
中島 彰俊、永瀬 智、廣田 泰、布施 泰子、増山 寿、松村 謙臣  
三浦 清徳、吉野 潔  
監 事：青木 大輔、木村 正、芝野 彰一  
顧問：吉村 泰典  
特任理事：山本 英子、山上 亘  
幹事委員会委員：佐藤 豊実、岩佐 武  
第78回学術集会長：渡利 英道  
第79回学術集会長：宮城 悦子  
第78回学術集会プログラム委員長：馬詰 武  
第79回学術集会プログラム委員長：水島 大一  
幹事長：小出 馨子  
副幹事長：春日 義史  
幹 事：石川 博士、井平 圭、岩橋 尚幸、衛藤英理子、太田 剛、梶村 慈  
金城 泰幸、佐山 晴亮、澁谷 裕美、渋谷 祐介、竹中 将貴 千草 義継  
道佛美帆子、中川 慧、中村健太郎、蜂須賀一寿、福田 武史、前林 亜紀  
芳川 修久  
副 議 長：小玉 美智子、中塚 幹也  
名誉会員：中林 正雄、嘉村 敏治  
事務局：吉田 隆人、正宗 玄、加藤 大輔

10:00 定刻になり、理事長、副理事長、理事の23名（梶山広明理事、加藤聖子理事、田中守理事は欠席）が出席し、定足数に達しているため、万代昌紀理事長より開会の宣言があった。なお、Web会議システム（Teams）を用いての開催のため、事前に参加者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みとなっていることが確認されたうえで議案の審議に入った。

**万代昌紀理事長**「新しいメンバーになってから初めての正式な理事会である。既に私もいくつかの委員会やワーキンググループに出席しているが、色々な事を、非常にアクティブに進めていただいていると感じている。本日はその報告や審議をよろしく願いたい。」

## I. 議事録(案)の承認及び、確認について

(1) 令和7年度第2回臨時理事会(6/28)議事録(案)の承認

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 令和7年度第3回臨時理事会(6/28)議事録の確認

## II. 主要協議事項

### 1) 運営委員会の答申について

[資料：運営委員会 1]

- (1) 専門委員会運営内規「14. 専門委員会に関する事項」の改定について
- (2) 第 81 回学術集会長候補者選定委員会委員について
- (3) 婦人科腫瘍委員会「婦人科癌の取扱い規約などの改訂と普及に関する小委員会」における委員増員（内規：原則 8 名以内⇒1 名増員、計 9 名）について
- (4) HUMAN+事業の終了と今後のデータ活用について

### 2) 令和 8 年度日本産科婦人科学会予定表(案)について

[資料：主要協議総務 1]

本案で承認されれば、令和 8 年度日本産科婦人科学会予定表として確定させたい。

万代昌紀理事長「他の学会と予定が重なっているなどあればお伝えいただきたい。基本的にこの予定表通りに進めていくこととし、令和 8 年度の臨時社員総会および定時社員総会の開催日時についても、この通り進めさせていただき、招集することとしたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 3) 第 78 回日本産科婦人科学会学術講演会について

①一般演題の応募を開始した（募集期間：2025 年 8 月 1 日～9 月 17 日正午、修正期間：～9 月 24 日）

②日産婦誌 10 月号に、第 78 回学術講演会第 2 回予告を掲載したい。

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ③その他

- ・ポケットマップ作成について
- ・プログラム号に掲載するチラシについて

[資料：学術講演会 1]

馬詰武プログラム委員長「学術集会に関し 4 点協議いただきたい。まず、総会後に名誉会員の表彰式を行なっているが、賞状授与に加えて、それまでの経歴をパネルにまとめて紹介したい。2 点目は、表彰式の際、例年ガウンを使用していたが、今回は、海外からの名誉会員の応募が無いようなので、ガウンの着用をなくしたい。3 点目は、学術集会のポケットマップであるが、最近はアプリを使用されているケースが多く、費用節約のため、従前の分厚いタイプから胸ポケットに入るサイズに変更したい。4 点目は、委員会企画のプロ

グラムのチラシについて場所と日時の変更がし難いような運用上の問題があり、冊子体の廃止に伴い、委員会企画毎のチラシをなくし、代わりに、一覧を作成してどこでどのようなプログラムが行われているか分かりやすくするような対応をしたい。また、日本 VR 医学会から、本会との合同企画について提案いただいた。」

**万代昌紀理事長**「現会員の中には、名誉会員の先生方の経歴を知らない若い先生もいると思う。その業績を一覧にして、見せていただくということで非常にありがたい。また、今回は外国の方がいないので、ガウンの着用なしでということによりよいと思う。委員会企画チラシについては、場所と日時の変更等がある場合、事務局ですぐに直せないという運用上の問題があった。一覧であれば、どこでどのようなプログラムが動いているかが一目でわかるようになるようなので良いと思う。日本 VR 医学会との合同企画は、ぜひ見に来ていただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### 4) 見解・細則改定の委員会提案について

(1) 「生殖補助医療実施医療機関の登録と報告に関する見解」の文言を変更、追加する改定を提案したい。 [資料：協議臨床倫理 1-1, 1-2]

**三浦清徳常務理事**「見解、或いはこれまでの用語集との用語の整合性を合わせた。例えば、受精卵という用語をすべて受精胚という用語に修正し、胚培養士の資格を日本卵子学会と日本臨床エンブリオロジスト学会による統一資格へと明確化するなど、変更点は資料の通りである。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 「不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査 (PGT-A) に関する細則」の文言を追加する改定を提案したい。 [資料：協議臨床倫理 2-1, 2-2]

**三浦清徳常務理事**「PGT-A について今より対象を拡大するべきという意見が患者側、医療者側からも多く、高齢妊娠に対する対象の拡大と 35 歳以上を目安とすべきという点を追加したい。」

**廣田泰理事**「日本生殖医学会のガイドラインは今月末に発刊されるが、日本生殖医学会から本会に推奨度は C であるが、複数の胚が獲得できて、高年齢の場合は実施できるようにしたいという提案があった。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

**三浦清徳常務理事**「細則の改訂を本理事会でお認めいただいた場合、いつから周知するようになるのか。」

**鈴木直副理事長**「総会承認は必須ではないので、月曜日以降にホームページに掲載し、会員メール等で通知する対応が良いと思われる。」

**木村正監事**「PGT-A の当初の議論として、反対意見があったので、生殖補助医療の技術ということと、私費になるという点をしっかり通知することについて配慮をお願いしたい。」

三浦清徳常務理事「文章の内容については委員会ですっかり検討したい。」

万代昌紀理事長「必要に応じて理事会でも文章内容を確認する。」

### Ⅲ. 専門委員会報告並びに関連協議事項

#### 1) 生殖・内分泌委員会（谷口文紀委員長）

##### (1) 会議開催

###### ①親委員会：

令和7年度 第2回生殖・内分泌委員会（Web会議）	9月29日【予定】
---------------------------	-----------

万代昌紀理事長「『減胎手術の全国調査』は回答いただけるものなのか。」

谷口文紀委員長「ART施設は約650あるが、それ以外も一般不妊施設を対象にしようと思っている。回答いただけるかはやってみないとわからない部分はあるが、実施したいと考えている。」

万代昌紀理事長「よろしくお願ひしたい。」

###### ②小委員会：

子宮腺筋症病巣除去術の患者レジストリのプラットフォーム作成小委員会（Web会議）	7月16日
本邦におけるがん・生殖医療以外の適応による卵子凍結のあり方の検討小委員会（Web会議）	7月23日
ART登録事業小委員会（Web会議）	8月4日

(2) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会より、C-2 水準小委員会に生殖領域からの委員推薦依頼があり、山梨大学の吉野修先生が担当することとなった。

#### 2) 婦人科腫瘍委員会（佐藤豊実委員長）

##### (1) 会議開催

###### ①親委員会：

令和7年度 第2回婦人科腫瘍委員会（Web会議）	8月25日
令和7年度 第3回婦人科腫瘍委員会（Web会議）	11月17日【予定】

###### ②小委員会：

婦人科腫瘍登録の運用および nationwide のがん疫学に関する小委員会「婦人科腫瘍オンライン登録要項ロジカルチェック検討会」（Web会議）	8月14日
婦人科癌の取扱い規約などの改訂と普及に関する小委員会（Web会議）	8月18日
CIN 管理およびがん検診均てん化に関する小委員会（メール審議）	8月7日～20日
がんゲノムと新しいがん薬物療法を検討する小委員会（Web会議）	8月18日
HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の管理を検討する小委員会（Web会議）	8月19日

(2)小委員会の活動報告など：

- ①「婦人科腫瘍登録の運用および nationwide のがん疫学に関する小委員会」
  - ・2023 年患者年報と第 66 回治療年報について、ほぼ完成しており、学会誌掲載の準備を行っている。
  - ・2022 年患者年報と第 65 回治療年報（2017 年治療開始症例）について、英語版の論文を投稿する予定である。
- ②「CIN 管理およびがん検診均てん化に関する小委員会」
  - ・CIN2 の症例を集積し、最終回析に向けて準備中であり、その後、論文化する予定である。
- ③「AYA 世代に対するがん診療に関する小委員会」
  - ・婦人科がんに対する妊孕性温存治療の実態調査について、論文化に向けた準備を進めている。
- ④「婦人科悪性腫瘍に対する低侵襲手術の普及に関する小委員会」
  - ・保険診療で腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）を、円錐切除で確認された FIGO2018 IA1 期のみを実施する登録施設 B の新規申請 3 件審査結果：すべて承認
  - ・自由診療で腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る）を施行施設の新規申請 13 件審査結果：すべて承認
  - ・子宮体がんに対する内視鏡（腹腔鏡・ロボット支援）拡大手術登録施設「子宮全摘出術、付属器摘出術および骨盤リンパ節郭清術に加えて傍大動脈リンパ節郭清術を実施する施設」申請 47 件：審査中
- ⑤「がんゲノムと新しいがん薬物療法を検討する小委員会」
  - ・婦人科がんにおけるバイオマーカー検査の手引き 1.0 版を婦人科腫瘍学会と共同で策定し、本年 7 月付けで両学会のホームページに公開した。
- ⑥「婦人科がん治療後のサーベイランスを検討する小委員会」
  - ・婦人科がん治療後のサーベイランスの実態について明らかにする研究が進行中である。
- ⑦2025 年の公募研究として採用した、「進行期卵巣非漿液性癌における術前化学療法とインターバル腫瘍減量手術療法の有効性についての後方視研究」、「本邦における Growing teratoma syndrome (GTS) の実態把握」について、実施準備を進めている。

(3)FIGO に関する質の高い情報をタイムリーに得ることが必要となるため、Women cancer committee の正式メンバーである矢内原臨先生を、「婦人科癌の取扱い規約などの改訂と普及に関する小委員会」に、委員として追加したい。

佐藤豊実委員長「FIGO より質の高い情報を得るため矢内原臨先生を委員として迎えたい。

内規では8名となっているが、9名までお認めいただきたい。」

万代昌紀理事長「原則8名までという規定があるが、必要なメンバーであり、昨日の運営委員会でも審議されたが、認めたいという答申が出ている。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4)子宮体癌の術前検査について全国アンケート調査を、「婦人科癌の取扱い規約などの改訂と普及に関する小委員会」において実施したい。子宮体癌の術前診断の検査方法はガイドラインでも定まったものはなく、各施設の判断で行われているところであり、診断精度の比較を行った先行論文はいくつかあるものの、結論はまちまちである。子宮体癌において、各施設でどのような生検方法で術前診断をしているか、また術前と術後診断を比較した場合の up grade, down grade が発生する割合について調査し、どの術前診断方法がより有効で適切なものかを調べ、FIGO2023 staging を取扱い規約に取り入れ修正する際、どのような術前検査が推奨されるのか議論するうえでのデータとして活用したい。

[資料：専門委員会 0]

万代昌紀理事長「アンケート調査の内容は資料の通りだ。本内容について、追加変更等があれば委員会に連絡いただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 3) 周産期委員会（関沢明彦委員長）

(1)一般社団法人日本輸血・細胞治療学会からの「学会認定・臨床輸血看護師制度協議会」委員委嘱依頼について、埼玉医科大学総合医療センターの松永茂剛先生を推薦したい。

[資料：専門委員会 1]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)周産期登録事業アドバイザー業務委託、公認ベンダシステムの新規加盟（周産期登録データベース使用許諾）について

#### ①周産期登録事業アドバイザー業務委託

周産期登録の一括登録に対応する入力補助ソフト（ファイルメーカー）の保守・メンテナンス、公認ベンダ各社からの技術的問い合わせ対応、データベースロジックのチェック、委員会への技術的助言などが必要である。これらを担うアドバイザー業務について、トーイツ株式会社に委託することとした。

[資料：専門委員会 2-1]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ②公認ベンダシステムの新規加盟

フクダ電子株式会社が、本会周産期登録の一括登録対応システムベンダとして加盟を希望したため、承認した。これにより、公認システムベンダは6社（アトムメディカル株式会社、トーイツ株式会社、株式会社ニューウェイブ、株式会社ファインデックス、フクダ電子株式会社、株式会社ミトラ）となる。

[資料：専門委員会 2-2]

- (3) 「妊婦・授乳婦を対象とした薬の適正使用推進事業」 妊娠と薬情報センター情報提供ワーキンググループより、第4回「医療用医薬品添付文書の妊婦に関する禁忌等の記載内容の変更を希望する薬剤調査」への協力依頼があり、周産期委員会内で意見を求めて担当の小委員会で検討のうえ、要望書を取りまとめる予定である。 [資料：専門委員会 2-3]

#### 4) 女性ヘルスケア委員会（岩佐武委員長）

##### (1) 会議開催

令和7年度 第2回女性ヘルスケア委員会（Web会議）	8月19日
----------------------------	-------

- ① 『PMS・PMDD 診断治療管理指針』の一般向け解説冊子作成と普及活動に関する小委員会宝くじ社会貢献事業に助成を申請しているが、本助成を得て冊子を作成した場合、協会のマスコットと広告を入れる必要がある。委員会として実施した研究の成果物に広告を掲載することの是非について、あらかじめ承認が必要と考える。 [資料：専門委員会 3]

岩佐武委員長「宝くじ社会貢献事業からの助成金を活用して、冊子体を作りたい。ただし、この宝くじ社会貢献事業を用いた場合、その成果物に対して本事業の広告を載せなければいけないという義務が発生する。このようなマスコットと広告を掲載することになることについて、承認をいただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

- (2) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会より、C-2 水準小委員会に女性医学領域からの委員推薦依頼があり、徳島大学の吉田加奈子先生が担当することとなった。

##### (3) 書籍頒布状況

書籍名	7月販売	累計販売数
低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステロン配合薬ガイドライン 2020 電子版付	29	7,878
女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針	4	1,580

- (4) 第2回臨時理事会でご相談した、「緊急避妊法の適正使用に関する指針（令和7年改訂版）」について寄せられたご意見書に対する回答を行った。また、回答の内容どおり、本会ホームページで公開されている、「緊急避妊法の適正使用に関する指針（令和7年改訂版）」に、一部加筆した。 [資料：専門委員会 4-1, 4-2]

## IV. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

### 1) 総務（鈴木直副理事長）

#### 〔I. 本会関係〕

##### (1) 会員の動向

- ① 貝原 かいばら 學 まなぶ 功労会員(千葉)が令和7年4月29日にご逝去された。

- ② <sup>わたなべ</sup>渡辺 <sup>ひろし</sup>宏 功労会員(福島)が令和7年6月21日にご逝去された。  
③ <sup>いわた</sup>岩永 <sup>あきら</sup>啓 功労会員(大阪)が令和7年8月1日にご逝去された。  
④ <sup>いのう</sup>井筧 <sup>しげひこ</sup>重彦 功労会員(岐阜)が令和7年8月15日にご逝去された。

(2) 名誉会員特例措置申請

茨城地方学会より1名、大阪地方学会から1名、退会希望についての特定措置の申請書を受領した。  
[資料：総務 1, 1-1]

鈴木直副理事長「名誉会員は終身称号により退会手続きをとることができないため、特例措置申請をいただきこの理事会でお認めすることとなる。2名からの特例申請があった。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 常務理事会の運営方法の変更について

[資料：総務 1-2]

万代昌紀理事長「常務理事会の運営方法の大きな変更となるので私から説明させていただく。現在理事会と常務理事会がほぼ同じ出席メンバーになっている。理事会は決議機関であり、常務理事会はそれに向けた検討の場ということになっていたが、委員会等が増えて、その委員長が出席することになっているので、数名の委員長等の役務が当たっていない先生のみが参加しないというような状況になっているため、資料のような形で開催したいと考えている。現地参加の原則は理事長、副理事長、監事、幹事長として、それ以外の理事、専門委員会の委員長等も Web 参加をいただくようにしたい。審議内容については、常務理事会で3つ程度選別した委員会やワーキンググループを募って、そのトピックについて各30分程度かけて忌憚ない意見を募るような形にしたいと考えている。それ以外の理事会まで待てない事項や、短時間でも協議したいという事項があれば、その内容も取り入れたい。まずはそのような形でやってみようと思うが、懸念点等あればご指摘いただきたい。次回10月は、岡本先生の財務のWG、松村先生の規則のWG、広報委員会のSNSに関するWGについて、情報共有をお願いしたいと考えている。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 第81回学術集会長候補者選定委員会委員について

[資料：総務 2]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 「SRHRに関する学会連携諮問委員会」

- ① 同委員会は令和5年3月に2年間の任期で新設したが、ほぼ同メンバーで更に2年間継続させたい。委員については既に内諾頂いており、任期は令和9年度定時総会（令和9年6月26日）終了までとする。  
[資料：総務 3]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ② 7月11日（金）に開催した第2回「民法改正に伴う父母の離婚後の共同親権導入への対策検討ワーキンググループ」（日本小児科学会内委員会内に設置）に、本会より委員として参画している水主川純先生（東京女子医大）が出席した。次回の会議開催は9月24

日（水）の予定である。

[資料：総務 4]

(6) 「学会財務に関する検討 WG」

① 会議開催

第 1 回学会財務に関する検討 WG キックオフ MT (WEB 開催)	8 月 19 日
--------------------------------------	----------

・ 8 月 19 日開催のキックオフミーティングにおいて、本 WG で今後検討して行く課題や方針を確認した。

[資料：総務 5]

**岡本愛光委員長** 「他学会の会費や転載許諾料などを比較し検討した。収入源として検討された項目として、転載許諾料の大幅な見直し、施設登録更新の手数料、賛助会員制度やメディアカルスタッフ向けの会員制度の新設、クラウドファンディングの活用などがあげられた。次回の常務理事会の際に、忌憚のないご意見をいただきたい。」

**万代昌紀理事長** 「現状学術集会の収益に頼っている状況であり、このような状況が続くと本会の内部留保も尽きてしまう可能性もあるため、検討を行う必要があると考えている。次回の常務理事会でぜひご議論いただきたい。」

(7) 「学会規約に関する検討 WG」

① 会議開催

令和 7 年度学会規約等に関する検討 WG (キックオフミーティング)	7 月 15 日
令和 7 年度第 1 回学会規約等に関する検討 WG	9 月 5 日
令和 7 年度第 2 回学会規約等に関する検討 WG	【予定】 10 月 3 日

② 7 月 15 日開催のキックオフミーティングにおいて、今キャビネットより新設された本 WG における今後の検討課題や方針を確認した。

**松村謙臣委員長** 「次回の常務理事会の前に、具体案を提示できるように準備している。」

**万代昌紀理事長** 「誰に対しての見解か、違反するとどのような罰則があるのかなどを整理する必要があると考え、準備していただいている状況である。こちらも議論は進みつつあるので、ぜひ次の常務理事会でご議論いただきたい。」

(8) 専門委員会内規「第 5 章、第 6 章 登録業務関連項目」の改定について [資料：総務 6]

**山上亘特任理事** 「データベースの継続性をみるために 5 年おきに学術、運営委員会で確認をするという記載が実情に合わないため削除したい。実情として、実務担当者については小委員会が作られているところ、また Web 中心で運用が行われているため、そこの部分に沿った内規の改訂となる。昨日の総務担当理事会そして運営委員会でお認めいただいている。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 日本医学会連合への 2025 年度会費納付について

[資料：総務 7]

(10) 日本肥満学会から出されている【女性の低体重/低栄養症候群ステートメント (2025 年 4 月 17 日公開)】を JOGR の英文として投稿することについて [資料：総務 8-1, 8-2]

芳川修久主務幹事「JOGR の編集委員会としては、『関係諸学会の許諾が得られていること』を条件とした。」

鈴木直副理事長「和文でも報告されているようだが、二重投稿に当たるか否かに関する議論はないのか。」

木村正監事「以前、日本医師会の医学賞をいただいた際、日本医師会雑誌と JMA の両方に投稿することについて、『in Japanese』という引用をつけることと、『second publication』のような記載を入れ、二重投稿を回避する見解を編集局の方から指示されたので情報として共有させていただく。」

鈴木直副理事長「ウェブサイト上で公開したものなのか、日本肥満学会誌に掲載されている statement 論文上のものかわかるか。」

芳川修久主務幹事「本件は、委員会で確認を行なった上で対応を検討したい。」

万代昌紀理事長「statement 自体を投稿することは問題ないように思うが、確認をお願いしたい。open access にするのか。open access にすると費用がかかるが、その辺りの費用負担の確認もお願いしたい。」

鈴木直副理事長「statement の形式であればよいと思うが、論文形式の場合は二重投稿の問題が生じる可能性があるので確認をしっかりとお願いしたい。」

本件に関して、和文掲載内容と同一とならないように工夫の上投稿することが望ましいとされた。

(11) 令和 7 年度決算の会計監査につき、昨年度同様に中田公認会計事務所と契約したい。監査報酬は、会計処理、決算業務に関する指導・相談を含めて、前年同額の年間 230 万円である。  
[資料：総務 9-1, 9-2]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(12) 2015 年に当時の未来ビジョン委員会が主体となって作成したマスコットキャラクター「さんのとり」の商標登録の更新について  
[資料：総務 10-1, 10-2]  
更新期日：10 月 30 日、更新費用：5 年 90,400 円、10 年 152,800 円

鈴木直副理事長「2015 年に当時の未来ビジョン委員会が主体となって作成したマスコットキャラクター『さんのとり』の商標登録について、コストもかかるので更新をしないこととしたい。ただし、キャラクターはこのまま使用できる。」

本件に関して、商標登録は更新しないが、キャラクター使用は可とすることとし、承認された。

(13) WEB 会議システムツールの変更について  
[資料：総務 11-1]

鈴木直副理事長「現在、Zoom の基準に合致しない可能性があるため、Teams を利用することとする。マイクロソフトとの契約では、すでに職員数分アカウントがある状況で、Teams であれば費用もかからず、財務状況的にも寄与することから Teams を本会の適切な Web 会議システムと判断し、順次、Teams での会議開催へと切り換えていきたい。」

本件に関して、事務局の準備が整い次第、スタートすることとした。

(14) 事務局の働き方改革について

[資料：総務 11-2]

万代昌紀理事長「事務局の働き方改革について、最近残業がじわじわ増えてきているので、各委員会で留意をお願いしたい。基本的には職員の方は9時17時で働いているので、委員会等をされる場合、基本的には18時ぐらいまでが職員の方に参加していただける時間とと思っていただきたい。非常に重要な委員会で、どうしても18時から始めなければならないこともあるので、その場合は各職員の方と相談をし、自宅から参加してもらったり、事務局の方が出席する必要があるときは、議題に関しては18時まで済ませて、あとは抜けてもらったりする等、各委員会で工夫をしていただきたい。」

(15) 事務局次長として、森重 <sup>もりしげ</sup> <sup>すすむ</sup> 進さんが10月1日付けで着任の予定。三菱UFJ信託銀行からの出向期間を経て、令和8年4月1日付けで正式採用とする方針である。

また10月1日付けで、事務局役職を次の通り変更する。

- ・吉田隆人 現 事務局長 ⇒事務局参与
- ・正宗 玄 現 事務局次長 ⇒事務局長

〔Ⅱ. 官庁関係〕

(1) 厚生労働省・こども家庭庁

①会員周知依頼（ホームページに掲載済、◇はメール案内も実施）

依頼元		内容	資料
厚生労働省	医薬局監視指導・麻薬対策課	令和6年度販売情報提供活動調査事業報告書について	総務 12-1
	医政局研究開発政策課	「再生医療等の安全性の確保等に関する法律及び臨床研究法の一部を改正する法律の施行等に伴う再生医療等の各種申請等のオンライン手続サイト及び臨床研究等提出・公開システムにおける取扱いについて」の一部改正について	総務 12-2
		再生医療等の提供に関連した「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づく手続等について（再周知）	総務 12-3
	医薬局医薬品審査管理課	ドナネマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドラインの一部改正について	総務 12-4
		ニボルマブ（遺伝子組換え）製剤の最適使用推進ガイドライン（高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する結腸・直腸癌）の一部改正について	総務 12-5
医薬局医薬安全対策課	「使用上の注意」改訂指示通知（8月28日発出）について	総務 12-6	
こども家庭庁	成育局母子保健課	令和7年台風第8号に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-1
		令和7年カムチャツカ半島付近の地震に伴う津波による災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-2
		◇保護者の思想信条等に起因する医療ネグレクトへの対応について	総務 13-3

	令和7年8月6日からの低気圧と前線による大雨に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-4
	令和7年8月20日からの大雨に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-5
	令和7年台風第12号に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-6
	令和7年9月2日からの大雨に伴う災害の被災者に係る妊婦健康診査等の各種母子保健サービスの取扱い等について	総務 13-7

(2) AMED 革新的医療技術研究開発推進事業

AMED 革新的医療技術研究開発推進事業（産学官共同型）事務局より、五次公募開始についての周知依頼があり、本会ホームページに掲載して周知した。 [資料：総務 14]

(3) 厚労科研 難治性疾患政策研究事業

厚労科研 難治性疾患政策研究事業 「自己免疫疾患に関する調査研究」より、厚労省指定難病・原発性抗リン脂質抗体症候群の認定基準の記述に一部変更が生じたとのことで、本会にもお認めいただきたいとのことで依頼書を受領した。本件については、事前に周産期委員会にてご検討いただいた。 [資料：総務 14-1]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) こども家庭庁

こども家庭庁成育局母子保健課より、令和7年度「不妊症に係る医療機関の情報提供に関する協力依頼について」の事務連絡発出にあたり、昨年度同様、本会に内容についての確認依頼があった。生殖・内分泌委員会と社保委員会にてご確認いただき、両委員会から特に問題無いとのことでその旨回答した。 [資料：総務 14-2]

(5) 厚生労働省医薬局

医薬局医薬品審査管理課より、エストラジオール・酢酸ノルエチステロンのスイッチ OTC 化について見解を伺いたいのので、まずは、9月8日の週にWEB会議を開催して論点等を説明したいとの依頼を受領した。 [資料：総務 14-3, 14-4]

本件に関して特に異議はなく、女性ヘルスケア委員会に対応を一任することとし、全会一致で承認された。

〔Ⅲ. 関連団体〕

(1) 日本医学会、日本医学会連合

① 会員周知依頼（ホームページに掲載済、◇はメール案内も実施）

依頼元	内容	資料
日本医師会	令和7年度 死亡時画像診断 (Ai) 研修会の開催について	総務 15-1

独立行政法人医薬品医療機器総合機構 信頼性保証部	「「あなたが変える治験環境～ICH-GCP・省令改正と治験エコシステムで描く未来～」の開催について」の発出について	総務 15-2
日本医学会連合	(オンデマンド配信開始のご案内) 日本医学会連合新型コロナウイルス感染症による医学・医療・健康に与えた影響調査に関する研究推進委員会及び厚労科研費を用いた研究に関する合同発表会	総務 15-3
日本医師会	2026年8月～2027年6月派遣のハーバード大学 T. H. Chan 公衆衛生大学院 武見国際保健プログラムのフェロー募集のお知らせ	総務 15-4

## ②第 32 回日本医学会総会 合同シンポジウムの公募について

< 本会への参画依頼 >

㊦ 日本臨床スポーツ医学会より、「安全に身体活動を行って妊娠期を心身とも健康に過ごそうー日本産科婦人科学会、日本臨床スポーツ医学会の取組(案)」について合同シンポジウムの開催依頼書を受領した。婦人科医とスポーツ医が安全面、心理面、体調面等について議論したいとのことで、本件応諾し、委員には国立スポーツ科学センターの能瀬さやか先生を推薦した。 [資料:総務 16]

㊧ 日本精神神経学会から「医学会における男女共同参画の現状とこれから」について合同シンポジウム開催の依頼を受けた。異なる医学会の男女共同参画のこれまでの活動を振り返り、今後の展望を共有することで、日本の医学会全体にとっても有意義なこととなるとのことであり、本件について応諾した。シンポジストとしては名古屋大学の山本英子先生を推薦した。 [資料:総務 16-1]

㊨ 日本麻酔科学会より「無痛分娩をめぐる学術的・社会的課題の解決に向けて」をテーマとした合同シンポジウムの参画依頼を受領した。日本周産期・新生児医学会とともに実施したいとのことで、本件につき応諾し、演者として亀井良政先生を推薦した。 [資料:総務 17]

< 本会から参画依頼打診 >

㊩ 本会より日本人類遺伝学会および日本小児科学会に対し「生まれてくるこどものための医療に関わる生命倫理について審議・監理・運営する、公的なサポートを受けアカデミアと社会が共同して設立するプラットフォーム設置について」をテーマとした合同シンポジウムの共同開催依頼を发出した。公的なプラットフォーム設立に向けての議論を行うもので、両会からも承諾いただいた。 [資料:総務 18]

## ③日本医学会役員選挙結果について [資料:総務 19]

㊪ 任期満了となった日本医学会評議員、連絡委員、用語委員、用語代委員について次期各委員の推薦依頼を受領した。評議員には万代昌紀理事長、連絡委員には鈴木直副理事長、用語委員には増山寿教育委員会委員長、用語代委員には関根正幸用語集委員会委員長にお引き受けいただいた。 [資料:総務 20]

(2) 予防接種推進専門協議会

①第 102 回予防接種推進専門協議会代表会議(8/17)での議事について

[資料：総務 21-1, 21-2]

②「男子への HPV ワクチン定期接種化の要望書」への連名について

[資料：総務 22]

川名敬常務理事「HPV ワクチンの接種率が出てきており、キャッチアップで上昇したものの、若い世代ではまだ低い傾向にあるので注意が必要である。また、前回常務理事会で承認いただいた男性の HPV ワクチンの定期接種の要望書を本会連名で提出予定である。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 京都大学

京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構より、厚生労働省 臨床研究総合促進事「臨床研究・治験従事者等に対する研修プログラム」の一環として、「臨床研究・治験従事者研修」を実施することとなり、受講者募集の周知依頼を受領した。本件、本会ホームページに掲載し周知した。

[資料：総務 23]

(4) 日本体力医学会

日本体力医学会より「領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）」への応募にあたり「学会横断的身体活動・運動療法と標準的指標としての握力測定推進のための調査研究 ～アクティブガイド改訂を契機に～」を提案したいとのことで、本会あてに参画および担当者 1 名の推薦依頼があった。本件応募のうえ、担当者には国立スポーツ科学センターの能瀬さやか先生にお引き受け頂いた。

[資料：総務 24]

(5) 無痛分娩関係学会・団体連絡協議会 (JALA)

JALA より、2024 年度の活動報告、及び 2025 年度事業計画・予算案の承認依頼を受領した。本件は総務で内容を確認し、承認する旨を回答した。

[資料：総務 25-1, 25-2, 25-3]

(6) 日本輸血・細胞治療学会

日本輸血・細胞治療学会より、先般本会の周産期委員会にてパブリックコメントを提出した「大量出血症例に対する血液製剤の適正な使用のガイドライン（第 2 版）」の改訂版について、本会理事会による承認を得たいとのことで依頼書を受領した。本件は、厚労科研による日本輸血細胞治療学会と関連学会が合同して出版される予定の指針のため、各学会の承認後に投稿予定とのこと。

[資料：総務 26]

鈴木直副理事長「本会から推薦している順天堂大学の牧野真太郎先生が担当されており、内容を確認していただいている。追加等あれば、事務局までご連絡いただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 外科系学会社会保険委員会連合

外科系学会社会保険委員会連合より、「外保連：第 25 回医療経済実態調査（医療機関等調査）の協力依頼について」の締切延長の周知依頼があり、一斉配信メールおよび本会ホームページに掲載して周知した。

[総務：資料 27]

(8) 日本母乳の会

日本母乳の会より、第 29 回母乳医育児支援研修会・乳頭ケア 1 日実践研修会開催についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載し周知した。 [資料：総務 28]

(9) 日本摂食障害協会

日本摂食障害協会より、本会が後援した「世界摂食障害アクションデイ 2025」についての実施報告書を受領した。 [資料：総務 29]

(10) 臨床試験医師養成協議会

臨床試験医師養成協議会の第 10 期定時社員総会について本会より鈴木直副理事長にご出席いただく予定である。 [資料：総務 30]

(11) 日本産婦人科手術学会

日本産婦人科手術学会より「第 48 回日本産婦人科手術学会」開催の周知依頼を受領し、本会のホームページに掲載し周知した。 [資料：総務 30-1]

(12) 日本医科器械資料保存協会

日本医科器械資料保存協会より、令和 7 年度「医科器械史研究賞」受賞候補者推薦の依頼書を受領した。本会からの推薦若しくは自薦も可能とのことで、本会のホームページに掲載し周知した。 [資料：総務 30-2]

(13) 日本医療安全推進学会

日本医療安全推進学会より「第 2 回日本医療安全推進学会学術総会」について、本会の後援名義使用申請の依頼書を受領した。昨年同様特に経済的負担もなく、本件応諾いたしたい。 [資料：総務 30-3]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(14) 禁煙推進学術ネットワーク

これまで委員を務められてこられた山口建先生の後任として、中村健太郎先生が運営委員会にて選定され、お引き受けいただいた。任期は 2027 年 6 月の同ネットワークの社員総会終了後までとする。

(15) 日本がん治療認定医機構

日本がん治療認定医機構より関連学会連絡委員会を開催(10/9, Web)する旨案内があり、本会からは鈴木直副理事長にご出席いただく予定である。 [資料：総務 30-4]

(16) 日本小児内分泌学会

日本小児内分泌学会および厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）「先天性骨系統疾患の医療水準と患者 QOL の向上を目的とした研究」研究班より、「軟骨無形成症診療ガイドライン（改訂版）」作成への協力についての依頼書を受領した。

[資料：総務 30-5]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(17) 日本産科婦人科内視鏡学会 / 日本婦人科ロボット手術学会

日本産科婦人科内視鏡学会および日本婦人科ロボット手術学会からの「da Vinci 5 サージカルシステムにおける Force Feedback Technology を備えた持針器の使用に関する注意喚起」について

万代昌紀理事長「既に 20 施設程このロボットが入っているようだが、針を把持した感覚があるのが売りのようだ。一方で、きちんと結紮がしまっていないようなことがあり FDA では頭頸部、婦人科では禁忌になっている。インテュイティブがきちんと報告してきていないという事情があり、上記両学会において検討を行ない、日本でこの機能をつかう場合は術者の責任で行うことというステートメントを發した。本会においては、会員に通知をお願いしたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(18) 日本女性医学学会

日本女性医学学会より「2025 年度メノポーズ週間」事業への本会の後援名義使用の許可申請書を受領した。例年の申し出であり、経済的負担もないことから本件応諾したい。

[資料：総務 30-6]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(19) 日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 (JOHBOC)

JOHBOC より、本会から理事候補として 1 名の推薦依頼を受領した。万代昌紀理事長をお願いしたいとの希望である。

[資料：総務 30-7]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) 公益財団法人 川野小児医学奨学財団

公益財団法人 川野小児医学奨学財団より、令和 7 年度「小児医学川野賞」募集受付開始についての周知依頼があり、本会ホームページに掲載して周知した。 [資料：総務 31]

(2) 認定 NPO 法人 乳房健康研究会

認定 NPO 法人 乳房健康研究会より「第 21 回ミニウオーク&ランフォーブレストケア ピンクリボンウオーク 2025」開催にあたり、本会あての後援名義の使用依頼書を受領した。例年の申し出であり、経済的負担もないことから本件応諾した。 [資料：総務 32]

(3) 日本化薬株式会社

日本化薬株式会社より、「ハイカムチン注射用 1.1 mg」供給再開および新剤形製剤の製造販売承認取得に関するご報告とお願いについての周知依頼があり、一斉配信メールおよび本会ホームページに掲載して周知した。 [資料：総務 33]

(4) 富士製薬工業株式会社

富士製薬工業株式会社より、他社製品の出荷停止に伴う同社製品限定出荷についての周知依頼があり、本会ホームページに掲載して周知した。 [資料：総務 34]

(5) 東和薬品株式会社

①東和薬品株式会社より、アスコルビン酸注射液 500mg/1000mg「トーワ」について、出荷一時停止についての周知依頼を受領した。本件、本会ホームページに掲載して周知した。  
[資料：総務 35]

②東和薬品株式会社より、アスコルビン酸注射液 100mg/500mg「トーワ」を含むアンプル製品 15 製品 1~3mL (98 ロット) を自主回収 (クラスⅡ) する旨周知依頼があった。本件は、一斉配信メールおよび本会ホームページに掲載して周知した。[資料：総務 36]

(6) 久光製薬株式会社

久光製薬株式会社より、メノエイドコンビパッチ出荷停止および自主回収の件についての追加情報として代替候補品追加についての周知依頼があった。一斉配信メールおよび本会ホームページに掲載して周知した。  
[資料：総務 37]

(7) 朝日新聞社

朝日新聞社メディア事業本部より、女性が抱える更年期症状に対し、適切な医療との出会いや気づきを促すことを目的として、「ハルノヒスマイルプロジェクト～女性の更年期日々の笑顔を取り戻す～」を立ち上げた由。同活動の一環として啓発動画を作成するにあたり、本会の後援名義使用の申請があったもの。本件経済的負担もなく本件応諾したい。

[資料：総務 38]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 日本肥満治療学会

**鈴木直副理事長**「日本肥満治療学会スポンサードシンポジウムに関して、1名を推薦して欲しい旨、昨日連絡をいただいた。こちらは回答期日9月16日までであり、この理事会で、日本肥満学会、日本肥満症治療学会等に本会から推薦できるような方がいらっしゃるようであれば、どなたか推薦していただきたい。」

**万代昌紀理事長**「女性ヘルスケア委員会にお願いして人選していただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、女性ヘルスケア委員会にて参加者を推薦いただくことで承認となった。

## 2) 会 計 (岡本愛光常務理事)

(1) 取引銀行の格付と預金残高について

[資料：会計 1]

**岡本愛光常務理事**「令和7年7月31日現在、取引銀行、証券等各金融機関に分散保有している。各金融機関は、健全な格付水準を維持している。」

### 3) 学 術 (永瀬智常務理事)

#### (1) 学術委員会

##### ① 会議開催

令和7年度健康・医療活動賞予備選考委員会 (WEB 開催)	7月29日
令和7年度教育奨励賞予備選考委員会 (WEB 開催)	8月19日
筆記試験問題評価委員会 (WEB 開催)	8月26日
令和7年度第2回学術担当理事会 (WEB 開催)	9月2日
令和7年度第2回学術委員会 (WEB 開催)	9月2日

#### (2) 令和7年度教育奨励賞候補者の選考について

- ・7月31日を締切として9名の推薦ならびに応募があった。予備選考委員会(8月19日開催)にて選考を行った候補者について9月2日の学術委員会にて候補者の選考を行う。その結果を理事会に答申する。 [資料：学術 1-1, 1-2]

##### 【候補者】

- ・二井 理文 (ニイ マサフミ) 君 (三重大学)  
「ケースに学び、地域を育てる：県内周産期医療を導く TV 会議システム、症例分析検討会および継続型教育セミナー」
- ・砂田 真澄 (スナダ マスミ) 君 (京都大学)  
「インストラクター主導型 VR 講義 (ILVRD) による骨盤深部解剖教育の実践と普及」
- ・長田 広樹 (ナガタ ヒロキ) 君 (鳥取県立厚生病院・鳥取大学)  
「Virtual Reality を用いた産婦人科臨床実習への挑戦と成果」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (3) 令和7年度健康・医療活動賞の選考について

- ・6月30日を締切として8件(個人1、団体7)の応募があった。予備選考委員会(7月29日)で3件の候補者・団体を決定した。9月2日の学術委員会でプレゼンテーションを行い決定した受賞候補者を理事会に答申する。 [資料：学術 2-1, 2-2]

##### 【学術委員会の最終選考による候補者】

- ・団体：産婦人科診療相互援助システム (Obstetrical & Gynecological Mutual Co-operativesystem, OGCS)  
(代表：吉松 淳 (ヨシマツ ジュン) 君)  
「産婦人科診療相互援助システム (Obstetrical & Gynecological Mutual Co-operative system, OGCS) 」

##### 【それ以外に予備選考委員会にて選考された候補団体】

- ・団体：特定非営利活動法人子宮頸がんを考える市民の会  
(代表：今野 良 (コンノ リョウ) 君)  
「子宮頸がん予防・啓発団体として国内で最も長い20年の歴史をもった活動」
- ・団体：東京産婦人科医会 学校保健部  
(代表：長岡 美樹 (ナガオカ ミキ) 君)  
「東京産婦人科医会 学校保健部」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 他団体の特別賞推薦依頼について

- ① 「2025 年度神澤医学賞」については、1 名の推薦を受けた。学術担当理事にて選考を行った結果、本会からの候補者についてご承認いただきたい。 [資料：学術 3-1, 3-2]

・松本 光司（まつもと こうじ）君 「我が国の HPV 感染と子宮頸部発癌に関する臨床疫学的・免疫学的研究」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

- ② 公益財団法人川野小児医学奨学財団より「令和 7 年度小児医学川野賞」候補者推薦依頼を受領したので理事および学術委員会委員に候補者推薦を依頼した。提出期限の都合上、学術担当理事会に選考をご一任いただきたい。 [資料：学術 4]

本件に関して特に異議はなく、学術担当理事会に一任する方針で承認された。

(5) 学術集会への演題応募における倫理的手続きに関する倫理指針検討 WG 報告

- ・第 78 回学術講演会から導入される一般演題応募の倫理的手続きについて(査読システム) [資料：学術 5]

**竹中将貴主務幹事**「日本医学会連合から指針が示されたことにより、第 78 回学術集会の演題登録より査読システムの改訂を行なった。日本医学会カテゴリー分類に基づいた倫理規定を査読者も確認いただくようなシステムになっている。」

**万代昌紀理事長**「一つの演題に対する査読者は 3 名か。その場合、3 名の判断がずれているようなケースも日本癌治療学会でもでは見受けられていたのでどのように対応するか決めておくと良いと思う。」

**宮城悦子第 79 回学術集会長**「79 回学術集会も本システムを使うような方向で検討しているが、日本婦人科腫瘍学会など関連学会は日産婦の規定を参照するようというリンクを貼るような形で使用しても良いか。」

**万代昌紀理事長**「本会関連の専門学会等で、本会の基準を参照していただく形にすることは良いアイデアだと思う。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 学術講演会評価委員会報告

- ・第 77 回学術講演会のオンデマンド配信視聴回数について [資料：学術 6]

**永瀬智常務理事**「オンデマンド配信の視聴回数が追加で記載されている。トータルで約 1 万 2 千人の方が、第 77 回学術講演会に参加されたとの報告を受けている。」

**増山寿常務理事**「第 77 回学術講演会を担当させていただいた。現地参加者 5000 人以上、そして Web 参加者と合わせると 1 万 2000 人近い方が参加していただいた。特に、Web では非常に多くのプログラムやご聴講をいただきとても感謝している。こういった準備が整い無

事終了することができたのも、ここにいらっしゃる先生方のおかげだと思っている。心より感謝申し上げる。」

(7) 筆記試験問題評価委員会からの答申について

- ・令和7年8月26日に委員会を開催し、専門医筆記試験について、問題の難易度、内容、形式、問題数、分野別比率などを個別に評価した。本委員会からの答申は中央専門医制度委員会に提出し、同委員会で本答申に基づいて検討（削除問題の検討、再採点）が行われる。

(8) 日本精神神経学会ランチョンセミナー開催についてのアンケートに8月7日付けで回答した。 [資料：学術7]

(9) プログラム委員会関連 特になし

4) 編集（芳川修久主務幹事）

(1) 会議開催

第2回編集担当理事会（WEB開催）	9月5日
第3回和文誌編集会議/JOGR編集会議（ハイブリッド開催）	10月24日【予定】

(2) 英文機関誌（JOGR）投稿状況：（8月31日現在） [資料：編集1]

	2023	2024	2025
Pending / Withdrawn	34	43	374
Accepted	263	324	121
Rejected	1515	1560	1169
<b>Grand Total</b>	<b>1812</b>	<b>1927</b>	<b>1664</b>

(3) オンラインジャーナルのリニューアルについて [資料：編集2-1～2-5]

オンラインジャーナルは、約12年前に株式会社杏林舎にて構築したサイトである。構築してから年数が経っていることから、システム自体が老朽化しているため改修が困難であり、稼働寿命も近いと見込まれ、2026年中にリニューアルを行う。見積もりを依頼した3社の提案内容は第1回編集担当理事会ならびに第2回和文誌編集会議を経て説明・協議を行っており、9月5日開催の第2回編集担当理事会において最終的に決議する。決議された業者ならびに見積もりを第2回理事会にて提示する。令和8年度の編集委員会事業計画にて当該オンラインジャーナルリニューアルの予算を申請するが、2026年中の運用開始を目指し、依頼業者や広告社への通知など必要な対応は今年度中に開始する予定である。

**芳川修久主務幹事**「和文雑誌のオンラインジャーナルサイトは、会員限定コンテンツになっておらず誰でも閲覧できる状態になっている。またスマートフォン画面での対応になっていないため非常に見づらく、また検索機能も不十分である。これらが課題として挙げられており、2026年中に、リニューアルを行う方向で検討を進めてきた。3社の提案内容と見積もりに関して編集会議において3度議論を行い、業者の選定を進めてきた。編集担当理

事会としては、株式会社マイス・ワンを選定すると決定した。」

鈴木直副理事長「検索ができないとのことだが、新しいものに関しては検索できるが、過去のものは検索できないということか。」

芳川修久主務幹事「2019年以前のものについて検索できないということになるが、さほどニーズが無いと考えている。2019年以降のものは検索可能で過去のものはPDFデータのみで見ることができる。」

本件に関して特に異議はなく、株式会社マイス・ワンに依頼することで承認された。

- (4) 和文機関誌第78巻特集について [資料：編集3]  
第2回和文誌編集会議にて第78巻の特集テーマ3題を選出し、それぞれのテーマの取り纏め役をお願いする先生にご承諾をいただいた。各テーマ、取り纏めの先生にご推薦いただいた3名に特集記事の執筆を依頼する。

## 5) 渉外 (春日義史主務幹事)

### (1) 会議開催

第2回渉外委員会 (Web開催)	9月10日【予定】
------------------	-----------

- (2) RCOG Congress 2025 (6月23-25日、於：英国 ロンドン)に派遣した若手医師3名(昭和医科大学 柱本真医師、順天堂大学 田村奈見医師、東京大学 矢野絵里子医師)が会期後のObservershipを終了し帰国した。 [資料：渉外1]

- (3) 13th Singapore International Congress of Obstetrics and Gynaecology (SICOG 2025、8月22-24日、於：シンガポール)について

① 生殖分野のスピーカーとして大須賀智子教授(愛知医科大学)、および周産期分野のスピーカーとして高橋健医師(東京慈恵会医科大学)を派遣した。

- ② OGSSから提案のあった若手医師 Academic Exchange Programについて OGSS 役員と協議する為、田中守渉外委員長を派遣した。 [資料：渉外2]

- (4) カンボジア産婦人科学会 2025年学術会議(11月15~16日から会期変更となり11月22~23日、於：カンボジア プノンペン) 演者募集に2名より応募があり、書類審査の結果、大塚聡代医師(千葉大学)を派遣することとなった。 [資料：渉外3]

### (5) FIGO 関連

- ① FIGO Committee members 2025-2027について [資料：渉外4]

- ② FIGO World Congress 2025(10月5-9日、於：南アフリカ共和国 ケープタウン)について

・ FIGO Women's awards 候補として本会が推薦した甲賀かをり理事の受賞が決定した。

[資料：渉外5]

・ FIGO Distinguished Merit Award 候補として FIGO Honorary Secretary Dr. Ravi

Chandran より推薦を受けた木村正監事の受賞が決定した。 [資料：渉外 6]

- General Assembly について (10月6日、8日) [資料：渉外 7]  
本会の Voting Delegate として田中守渉外委員長、Voting Delegate Assistants として万代昌紀理事長、甲賀かをり渉外副委員長、木村正監事、寺内公一教授、馬場長教授、Council representative として大須賀穰監事が出席の予定である。(但し、木村監事と寺内教授は10月6日のみ出席)
- 10月5日、J-K-T Session 2025 “Towards healthy middle-aged and elderly women’s lives” を開催の予定である。 [資料：渉外 8]

③ベルギーの FIGO 加盟学会の変更について [資料：渉外 9]

(6)7月7日、DGGG 2026、KSOG 2026、TAOG 2027、ACOG 2027 へ派遣の若手医師募集を開始した。(〆切：2025年9月17日) [資料：渉外 10]

(7)来年度表彰の海外名誉会員候補者の推薦を理事、および監事に募ったところ、〆切までに候補者の推薦はなかった。

**万代昌紀理事長**「非常にたくさん推薦された時代から今少しずつ減ってきているが、候補者の推薦がないことにつき、問題はないか。」

**木村正監事**「KSOG と TAOG の会長をリタイアされた先生などを名誉会員にしていたこともあったが、多すぎるという議論が最近出たことも承知しているので、今回の判断で良いと思う。ただし、会長を辞められた先生がいなければ念のため確認していただいた方が良い気がする。ご確認ください。」

**万代昌紀理事長**「日本臨床腫瘍学会では、継続的に一人ずつ推薦していたと思う。渉外委員会でご判断されたということでしょうか。」

**春日義史主務幹事**「そのとおりである。」

**万代昌紀理事長**「今回は良いかもしれないが、推薦に頼って該当者がいなかった場合はどうするのかなど考えても良いかもしれない。」

(8)FIGO President Professor Anne-Beatrice Kihara の依頼によるアフリカとのコラボレーションについて、先ず本会とナイロビ大学との Webinar 開催で合意し、周産期委員会のご協力により9月6~7日ハイブリッド開催の” The Third International Workshop on Maternal Mortality” へのナイロビ大学の演者追加を先方に提案したが返答がなかった為、Workshop 視聴の案内に留めることとなった。

**関沢明彦副理事長**「5回ほどメールして連絡したが、全く返事がなかった。演者としても関わらないということだと思う。一応 Zoom のアドレスを送り『自由に参加できます』という案内はケニア産婦人科学会にしたところだ。」

(9)9月5日、スリランカ コロンボにて開催の AFOG Council Meeting に、田中守渉外委員長、梶山広明 AFOG EIC、および加藤聖子 AFOG Council Representative が出席した。前日の9月4日には AFOG Executive Board Meeting が開催され、梶山広明 AFOG EIC と加藤聖子 AFOG Council Representative が出席した。 [資料：渉外 11]

(10)平成 30 年度第 2 回常務理事会にて FISGE (International Societies of Gynecological Endocrinology) への加盟が承認され、2019 年以降毎年、FISGE 登録希望会員を本会 HP より募集し希望者のリストを FISGE に送付していたが、今回突然、希望者のリストではなく、本会全会員のリスト (氏名、メールアドレス、国籍) を要求された為、FISGE を退会したい。[登録会員数：2019 年 288 名、2020 年 26 名、2021 年 3 名、2022 年 7 名、2023 年 5 名、2024 年 17 名]

**春日義史主務幹事**「平成 30 年度第 2 回常務理事会にて FISGE への加盟が承認されて以降、登録希望会員を本会ホームページから募集し、希望者のリストを先方に送っていた。2019 年が 288 名でそれ以降は多くても 20 名程度というような状況になっている。2019 年は、最初だったので、東京大学の医局員の先生が皆さん加入してこの人数だった。突然今年、希望者リストではなくて、本会全会員のリスト、氏名メールアドレスなどを送れと要求があった。プライバシーの問題もあり、現状希望者も少ないという状況なので、この学会に関しては退会するという事でご承認いただければと思う。」

**万代昌紀理事長**「退会するという事で、委員会でもその方針で検討されたということで良いか。」

**春日義史主務幹事**「会議自体が来週あるが、委員長は退会の方針で良いと考えている。」

**万代昌紀理事長**「基本的な渉外委員会の次の議論にお任せする。そこで退会という結論になったらそういう方向でお認めするという事でよろしいかと思う。」

本件に関して特に異議はなく、渉外委員会に一任する方針で承認された。

## 6) 社 保 (甲賀かをり常務理事)

### (1) 会議開催

第 1 回社会保険委員会 (Web 開催)	8 月 4 日
-----------------------	---------

### (2) 本会からの委員委嘱について

#### 【外保連】

- ・内視鏡委員会委員、総務委員長：甲賀かをり委員長
- ・医療技術の新しい評価軸検討 WG オブザーバー委員 (ロボット支援下手術)：齋藤豪副委員長
- ・実務委員会副委員長、手術委員会委員、手術医療材料・医療機器 WG 委員、広報委員会委員：西井修オブザーバー
- ・実務委員会委員、処置委員会委員：磯部真倫委員
- ・検査委員会委員、検査生体検査コーディング WG 委員、検査・内視鏡 AI 診療作業部会委員：市塚清健委員
- ・検査画像診断試案作成 WG 委員：倉澤健太郎委員
- ・手術委員会委員、手術コーディング WG 委員：小玉美智子委員
- ・処置コーディング WG 委員：西洋孝委員
- ・麻酔委員会委員、全身麻酔 WG 委員：牧野真太郎委員
- ・医療技術の新しい評価軸検討 WG 委員：光田信明委員
- ・規約委員会委員、検査医療材料 WG 委員：宮崎亮一郎委員

#### 【内保連】

- ・女性診療科関連委員会委員長、IC 委員会委員：西洋孝委員
- ・女性診療科関連委員会副委員長：白澤弘光委員
- ・委員：小川真里子委員、春日義史委員
- ・遠隔医療関連委員会委員：田丸俊輔委員

#### 【日本医師会疑義解釈委員会】

- ・委員 西井修オブザーバー

#### 【日本産婦人科医会医療保険委員会】

- ・委員 甲賀かをり委員長、石川博士主務幹事

(3)8月5日、オンラインによる令和8年度診療報酬改定提案に関する厚労省ヒアリングに本会社保委員会より、甲賀かをり委員長、石川博士主務幹事、市塚清健委員、寺井義人委員、西井修オブザーバーが出席し、子宮悪性腫瘍手術（広汎切除）（ロボット支援）、および帝王切開術無結紮二層縫合加算について説明を行った。

(4)7月に提出した以下の項目に関する医療技術評価報告書について、厚生労働省保険局医療課よりレジストリに関する問い合わせを受け、これに回答した。

- ・K865-2 腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・K877-2 腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
- ・K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

**甲賀かをり常務理事**「ロボット手術を実施する施設は承認を受けた時点から2年に1回、全例のレジストリ情報を提供することが保険適用の条件となっている。これまでは、件数や合併症率を報告すれば特段の追加の確認はなかったが、今回はより詳細な情報（合併症の詳細や長期予後のデータがあるかどうか）を問われており、その背景にはロボット手術に対する診療報酬上の取扱いが影響しているのではないかと考えられる。現状、婦人科領域のロボット手術には加算が設定されていないが、泌尿器科や外科の一部では加算が認められているものもあり、加算を考えて詳細を問われているかとも思っている真摯に対応しているが、NCDのデータだけでは十分ではないため、日本産科婦人科内視鏡学会（JSGOE）のデータで補完する可能性についてもやりとりを行っている。今後はNCDだけでなく、JSGOEや日本婦人科腫瘍学会との間でデータ連携を行い、予後データを含めた形での報告体制を検討していく必要があると考えている。」

**万代昌紀理事長**「今回の議論は、今後極めて重要な課題であり、手術に限らず多方面に影響を及ぼす可能性があると思う。現時点で日本内視鏡外科学会は合併症データを保持しているが、加盟施設に限定している。したがって、今後は日産婦を中心に、内視鏡手術に限らず産婦人科領域の手術全般を包括するデータベースを整備しなければならない。さもなければ、選定療養制度の拡大など制度改正が進む中で、産婦人科領域が制度的に不利な立場に置かれる可能性が高いと懸念される。」

**山上亘特任理事**「NCDに一度データを登録すると容易に取り出せないという制約がある上、産婦人科領域は手術を実施しなければ専門医を更新できないという学会ではないため、いかにして会員全体の手術情報を集約できるかが大きな課題となっている。現状、一つの方策

としては JESGO でもデータを収集しており、そこでは日本内視鏡外科学会に登録されるデータや日産婦に登録されるデータを統合する取り組みが行われている。」

万代昌紀理事長「産婦人科が用意するデータベースで対応できないかを厚生労働省に確認し、できたら認めてもらうのがよいと個人的には考える。この当たりの議論を委員会でお願ひする。」

山上亘特任理事「引き続き検討していく。」

甲賀かをり常務理事「厚生労働省の方とお話をしたところ、『NCD ではなくても、学会が悉皆性や信憑性のあるデータを出してくれば良い』と担当官の話があった。本会で日本臨床腫瘍学会とも連結したデータを出した方が良いのではないかという印象もあったので、引き続き山上先生と連携しながら取り組んでいきたい。」

(5) 外保連より、減薬・休薬に関する研究シーズ探索のための調査への協力依頼（周知依頼）を受領した。（〆切 9 月 12 日（金）午後 5 時） [資料：社保 1]

(6) 日本医師会疑義解釈委員会より、医薬品の供給停止予定品目（07 疑 2231）、および医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目（07 疑 2331）の検討依頼を受領し、本会理事、社保委員による検討結果を回答した。

(7) 医薬品の安定供給に関する要望書提出について

① 7 月 29 日、6 件の要望書を厚労省へ提出した。 [資料：社保 2～7]

② 9 月に 6 件の要望書を厚労省へ提出したい。 [資料：社保 8～11]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) コスメゲン静注用 0.5mg の供給継続に係る検討の進捗報告について [資料：社保 12]

## 7) 専門医制度（関沢明彦副理事長）

(1) 日本専門医機構関連

① 会議開催

日本専門医機構 2025 年度第 2 回（6 期第 4 回）専門医認定・更新委員会、専門医検討委員会（認定・更新）合同会議	8 月 4 日
専門医委員会内 第 1 回専門医更新試験に関する小委員会	8 月 6 日
日本専門医機構主催 シンポジウム 『医療の均てん化と集約化を受給者と供給者、教育の立場から考える～Generalist と Specialist を育成する日本専門医機構における議論 UP-TO-DATE～』	9 月 20 日【予定】
専門医委員会内 第 2 回専門医更新試験に関する小委員会	9 月 30 日【予定】

(2) サブスペシャルティ関連

① 会議開催

[資料：専門医 1-1～1-3]

日本専門医機構 2025 年度第 1 回サブスペシャルティ領域懇談会	8 月 20 日
------------------------------------	----------

**関沢明彦副理事長**「カテゴリー3の認定について、承認基準の文書が示された。カテゴリー3は基本領域で審査基準を策定して、それに基づいて審査し、日本専門医機構の承認を得るという形になる。産婦人科は専攻医の数が500名未満なので2つの領域が認定可能となる。また、これまでの基本領域が複数領域にまたがる場合、共通の経験症例/手技を60%以上実施しなければならないとする基準や、試験は同一問題とすべきであるとする基準について、日本医学会や日本医師会などから異論があった。専門医の名称等を柔軟に対応することも含めて、再度検討することになった。」

**万代昌紀理事長**「総会には出席したが、急に変更したような状況になった。周産期専門医はどのような対応になるのか。」

**関沢明彦副理事長**「周産期は母体、胎児と小児領域で研修も試験も完全に分けてしまった。4つのサブスペはカテゴリー1、2で審査をうけている状況。カテゴリー3は4つのサブスペの採否によって申請を検討するような形になるのではないか。」

### (3) 学会専門医制度関連

#### ① 会議開催

研修委員会	9月9日【予定】
第3回中央専門医制度委員会	9月14日【予定】

②2025年度専門医認定二次審査（CBT試験、面接試験）は7月26日・27日に実施した。今回より、筆記試験はCBT試験に変更となった。

**関沢明彦副理事長**「今回から筆記試験はCBTを採用し、合計546人が受験した。受験生を対象にCBT試験や、会場についての感想などについてアンケート調査を実施している。結果がまとまり次第、報告させていただきたい。」

③CBT委託業者からのCBT試験実施における受験者対応に関する事象および是正措置報告について [資料：専門医2]

**関沢明彦副理事長**「試験開始時間が委託業者側の運用の問題で、契約で定められた時間より早く始めてしまったという状況があったが、不正につながるような状況は確認されていない。また、遅刻者は受験できない契約としていたが、正規の試験開始時間から2時間半遅れた状況で試験を開始したという事案が発生した。これら2点に対して資料のような報告書を受け取っており、来週の専門医制度委員会で対応を検討して、報告させていただきたい。」

**万代昌紀理事長**「対応を協議いただけるとのことなので、来年に向けて、反省点等を生かしていただきたい。将来的に面接のオンライン化は検討するのか。」

**関沢明彦副理事長**「昨年面接のオンライン化に関しては検討を行い、先送りという判断にしていた。引き続き検討していきたい。」

## 8) 臨床倫理監理（三浦清徳常務理事）

### (1) 会議開催

第1回がん・生殖医療施設認定小委員会（WEB）	7月24日
第2回定款・見解改定検討小委員会（WEB）	7月24日

登録・調査小委員会集合会議（WEB）	8月4日
第3回臨床倫理監理委員会（WEB）	8月14日
第2回PGTに関する継続審議小委員会（WEB）	8月26日
第2回特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会（WEB）	8月27日
第3回定款・見解改定検討小委員会（WEB）	10月23日【予定】

(2) 本会の見解に基づく諸登録（令和7年9月2日現在）

ヒト精子・卵子・受精胚を取り扱う研究に関する登録	133 研究（49 施設）
体外受精・胚移植に関する登録	635 施設
ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録	635 施設
顕微授精に関する登録	614 施設
医学的適応による未受精卵子、胚（受精卵）および卵巣組織の凍結・保存に関する登録	215 施設
提供精子を用いた人工授精に関する登録	16 施設

(3) 重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

①着床前診断に関する臨床研究申請・認可について（令和7年7月10日）

[資料：臨床倫理1-1, 1-2]

- ・施設申請（新見解基準）：承認38施設（うち付記があるもの：2施設）
- ・症例申請（2022年6月からの新見解基準）：156例《承認121例、条件付き承認14例、不承認6例、照会11例、審査待ち2例、取り下げ2例》

三浦清徳常務理事「現在承認施設が38施設で、北陸と東北地方にPGT-Mを希望されても実施できない地域があり、そこが問題点である。この解消については、今後の検討事項であるが、基準が厳しいというところが問題になっているようだ。」

②PGT-M 認定施設向け遺伝子バリエーション評価に関する講習会について

- ・昨年開催した PGT-M 認定施設に向けた講習会を今年も開催する。開催日は 2025 年 12 月 21 日（日）、講師は才津浩智先生（浜松医科大学）、竹内千仙先生（東京慈恵会医科大学）、右田王介先生（聖マリアンナ医科大学）を予定し、準備を進めている。
- ・学会会員である講師の才津浩智先生、右田王介先生の講演謝金（50,000 円）のお支払いをお認めいただきたい。

三浦清徳常務理事「色々な知見が蓄積されてきて、疾患遺伝子とされていたものが疾患感受性遺伝子であったり、同じバリエーションでも評価が変わってきたりしているという状況にあり、本年も講習会を準備している。会員には謝金の支払いは原則ないが、もともと他領域の専門の先生で、それぞれ日本人類遺伝学会と日本小児科学会を中心に活動されている先生であり、講習会に関わる準備等にも大変ご尽力いただいているので昨年度と同様お認めいただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

③PGT-M 症例審査結果報告について

[資料：臨床倫理 1-3, 1-4]

- ・2025年9月8日に、2024年7月から12月に申請され2025年6月末までに結果が確定した症例の審査結果報告書と、新見解後の申請症例（2022年4月以降に申請された症例）の審査結果をまとめた統合報告書を公表する。

**三浦清徳常務理事**「審査の結果の全体像が見えないという意見も頂いていたので、昨年7月から12月まで2024年の下半期に申請された症例について審査数、承認数を本日の記者会見で報告し、ホームページ上で公開したい。6ヶ月間の間に、審査された症例が45例、新規の症例が28例、前回から継続的に審議されていた症例が17例。今回不承認となった症例が3例の結果であった。これまで情報公開した中で、新しい見解になってからの審査の全体像が見えないという指摘も記者会見後に寄せられていたので、委員会で調査したところ審査124例、承認110例で不承認6例であった。審議継続症例については変わらない。」

**万代昌紀理事長**「こちらもまた時間をとって常務理事会等で検討したい。以前臨床倫理審議会で重篤性定義の評価などを行っていたと思うが、そちらの継続についてはどうか。」

**三浦清徳常務理事**「『重篤性』という言葉をつける是非について、現在は小委員会で検討を行っている。小委員会の中でも、その『重篤性』という言葉自体をつける必要があるのかどうかという意見もあるが、定義が急に変わると社会に不安を与えかねないので、慎重に審議していきながら、理事会に報告していきたい。また、臨床倫理審議会は今後も継続的に開催していく。」

**鈴木直副理事長**「倫理審議会を今後も継続的に行なう予定である。先日の倫理審議会は、重篤性の定義変更後の審査の振り返りを行うことが目的であったため、いきなりその定義を変えるということに関する議論は行わなかった。その中の課題を次につなげていくことになると思う。」

**万代昌紀理事長**「HBOCなどもその定義は変えない上で審査していくということか。」

**三浦清徳常務理事**「審査に参加されるのは、本会だけではないが、2年間で日本小児科学会や日本神経学会など他の専門学会の先生の理解も深まってきていて、医療としてのPGT-Mとしての認識は高まってきているように思う。審査結果もそれに対応して、この疾患名だけで判断する訳ではなく、個別背景をもとに審査が行われ、不承認になる症例にも理由がしっかりある。他学会からは、本会がルールを作って制限しているというのはどうなのかという意見をもらうこともあるが、臨床倫理審議会において、色々な学会の合意形成のもとに、ルールが作られているということを更に情報発信していく必要があると考えている。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (4) 不妊症および不育症を対象とした着床前遺伝学的検査に関する審査小委員会報告

①PGT-A・SR見解細則改定後の施設審査状況について（報告） [資料：臨床倫理 2-1]

②PGT-A細則に関するFineへのアンケート、会員向けのパブリックコメントについて

[資料：臨床倫理 2-2, 2-3, 2-4]

**万代昌紀理事長**「PGT-Aについては高齢妊娠の妊娠率をあげるためということで先ほどの話にも出たが、自費診療のため混合診療にならないようにという注意もつけて、周知していただきたい。」

#### (5) がん・生殖医療施設認定小委員会報告

①令和7年8月12日現在の妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）、温存後生殖補

助医療実施医療機関の審査・承認状況について

[資料：臨床倫理 3-1]

- ・妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）：176 施設
- ・温存後生殖補助医療実施医療機関である妊孕性温存療法実施医療機関：173 施設  
（うち、生殖医療専門医が不在のため、暫定施設として取り扱う施設：5 施設）
- ・妊孕性温存療法は実施しない温存後生殖補助医療のみの実施医療機関：5 施設

②妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）および温存後生殖補助医療実施医療機関の施設認定要件について

[資料：臨床倫理 3-2]

③すべての ART 実施登録施設に対する、妊孕性温存療法実施医療機関（検体保存機関）および温存後生殖補助医療実施医療機関の施設認定要件に関する周知確認と確認書提出の依頼について

[資料：臨床倫理 3-3]

**三浦清徳常務理事**「現状では約半数の施設が更新できないということになる。年間 5 例の施設基準は、卵巣凍結 5 件というわけではなく、カウンセリングや相談を受けた件数も含むということ、また、生殖医療ナビゲーターが必須になるということを知りたい。特に生殖医療ナビゲーターの資格については、取得までに一定の研修期間を要するため、現時点から準備を始めなければ認定更新に間に合わない可能性がある。該当資格を有する者が施設内にいない場合には、どなたかに資格取得を依頼する必要があるため、この点についても併せて周知する方針である。これまで、本会の学術集会のクロード企画において認定施設を対象に説明会を実施してきたが、参加率は全体の約 38%にとどまっており、十分な情報共有がなされていない可能性がある。したがって、今後は書面による周知を徹底し、各施設から『確認した』旨の確認書を本会に提出してもらおう形を検討している。」

**万代昌紀理事長**「半分公的な事業でもあり、わざわざ書面で周知するのもいかなものかと思う。該当の施設には、必要な企画に参加いただき、これらの情報を知ることが義務化するなど、引き続き検討いただきたい。」

(6) 特定生殖補助医療に関する運用検討小委員会報告

- ・AID 実施施設にアンケートを行った。

[資料：臨床倫理 4-1]

- ・特定生殖補助医療に関する法案が廃案になったことを受けて、議員連盟に対し、提供精子・卵子を用いた不妊治療の法的枠組みに関する要望書を提出したい。

[資料：臨床倫理 4-2, 4-3]

**三浦清徳常務理事**「AID の匿名性についてのアンケートを実施した。見解では匿名としているが、現在の状況として、非匿名が重要と実施施設が考えているという結果が明らかになった。出自を知る権利を考慮し、見解の文言等も検討していきたい。」

**鈴木直副理事長**「参議院での廃案を受けて、野田聖子議員から議連でディスカッションをしたいという打診があった。もともとの法案は 100 点満点とは言えなかった部分もあり、今後は議連に法案を提出する前に、議論をしたい。匿名、非匿名の定義や、提供者は親ではないという点を明記しないと、提供者、被提供者どちらにとってもよくない。見解については法案が通れば、匿名の記載を外す予定であったが、廃案になったことで、見解の改訂

を検討する必要がある。急に匿名から非匿名になると、大幅な変更になるので、並列して進めていく。要望書を認めていただければ、10月2日に提出したいと考えている。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 第78回学術講演会 委員会企画について

- ・クローズド企画（90分）、オープン企画（90分）を予定している。

(8) PGT-Mに関する倫理審議会最終報告書について

[資料：臨床倫理 5-1, 5-2]

- ・報告書と質問回答集を作成した。
- ・報告書、質問回答集、議事録、資料を学会ホームページにて公開したい。

**三浦清徳常務理事**「患者会の意見はこれまでは遺伝性腫瘍と PGT-M に関しては前向きな意見がなかったが、今の患者会は、やはり PGT-M という医療を届けてほしいという意見が非常に強かった。一方で日本小児科学会などの先生方からの意見としては、審議会で声が出ない意見にもしっかり配慮してほしいという意見が出て、倫理的な議論が深まった会であった。」

**鈴木直副理事長**「議論のほぼ全てがオープンになっており、多くの方に内容の精査をいただき、最終的な報告書が完成した。来週以降ホームページに公開を考えており、ご審議いただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

9) 教育（増山寿常務理事）

(1) 会議開催

令和7年度 第1回必修知識編集委員会（WEB開催）	8月14日
医学教育研究ワークショップ打合せ（WEB開催）	8月19日
令和7年度 第2回教育推進委員会（WEB開催）	8月26日
令和7年度 第3回教育委員会（WEB開催）	9月1日

(2) 書籍頒布状況（2025年8月31日現在）

	8月販売数	累計販売数
用語集・用語解説集改訂第5版（電子版付）	38	463
用語集・用語解説集改訂第5版（電子版のみ）	9	45
2022年度専門医筆記試験過去問題・解説集	13	1,599
2023年度専門医筆記試験過去問題・解説集	16	1,170
2024年度専門医筆記試験過去問題・解説集	25	723
産婦人科専門医のための必修知識2022	14	2,661

(3) 専門医試験作成委員会

2026年度専門医試験に向けた第1回全体会議を9月上旬に開催する。

増山寿常務理事「CBT 化に伴い、問題作成のスケジュールが 2 ヶ月前倒しになっている。来週、来年度の試験の作成に向けた企画会議を開催する予定だ。」

#### (4)用語集委員会

10 月から 11 月頃の予定で、本会会員に向けて用語集改訂第 5 版に関するアンケートの実施を検討している。

増山寿常務理事「今年の 5 月に第 5 版を発刊したので、アンケートを今後実施する予定だ。アンケート結果も踏まえ、第 6 版はいつ頃どのように作成していくか、スケジュール等も今後検討していく予定だ。」

#### (5)産婦人科研修の必修知識編集委員会

一次査読作業が完了した原稿について、2026 年に発刊予定の診療ガイドライン産科編・婦人科外来編および発刊済みのガイドラインの内容と齟齬がないか確認する。確認・修正が終了した原稿から杏林舎へ提出する予定としている。組版が整い次第、各専門委員会、教育委員会、理事の先生方のご意見をいただく予定である。

#### (6)教育推進委員会

委員会内の担当を教育研究担当、ホームページ担当、Faculty development (FD) 運営担当の 3 つに分け、活動を進めていくこととなった。医学教育学会と連携して実施する医学教育研究ワークショップの年度内の開催や、第 78 回学術講演会での教育委員会企画として FD 講習会を開催する予定である。

#### (7)CST 実施評価委員会

臨床医学・歯学の教育及び研究におけるご遺体の取扱いに関する共同声明について

[資料:教育 1]

増山寿常務理事「資料は、ご遺体の取扱いに関する共同声明で、ほぼ最終稿である。これに同意することについては承認いただいたが、内容をご確認いただき何かご意見などあれば、教えていただきたい。」

### 10) 地方連絡 (中村健太郎主務幹事)

(1)今までは 1 年に 1 回の会議開催により各都道府県の地方連絡委員と情報交換を行ってきたが、今後は本会開催の理事会と常務理事会の終了後、速やかに当委員会より『理事会 (常務理事会) の議事概要と会議での協議ポイント』を作成のうえ、地方連絡委員へ伝達したい。  
[資料:地方連絡 1]

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)地方連絡委員会の今後の業務内容を鑑み、9 月 6 日付けで幹事の蜂須賀一寿先生 (九州大学) を当委員会委員として追加委嘱したい。

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

## V. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会（川名敬常務理事）

#### (1) 会議開催

令和7年度 第1回広報委員会（WEB開催）	8月4日
SNSによるイメージ戦略ワーキンググループキックオフ	9月4日

#### (2) 旧 Human+ の取扱いについて

広報委員会としては、内容をアップデートしたうえで新しい事業として踏襲する、ただし、紙ベースの冊子ではなく、HP掲載やSNSの発信（そのリンク）として活用したいとの結論を得た。

**川名敬常務理事**「本委員会で当該案件について検討した結果、委員全員一致で、この事業は内容をアップデートしながら継続し、新しい事業として発信していくべきであるとの結論に至った。前回は委員会として意見はその方向でまとまっている。ただし、近年はアップデートをより頻繁に行う必要があるとの意見が強く、紙媒体の冊子を一度作成すると改訂作業が困難になることが指摘された。そのため、まずは電子媒体、すなわちホームページやPDFといった形で改訂を行うこととし、広報委員会が中心となって執筆者の先生方にも協力を依頼していく方針である。また、そのコンテンツの一部はSNSでの発信源としても活用できるとの意見が多く出されており、委員会としてもこの方向性を重視している。したがって、名称は変更される可能性があるものの、事業そのものは踏襲し、今後も継続していくべきであると考えている。この件についてご審議いただきたい。」

**万代昌紀理事長**「この委員会の業務としては相当な負担になると思われるが、委員会としてはぜひ継続すべきであるとのご意見で一致したようだ。そのため、理事会としてもこの事業を継続していくということによろしいか、ご審議いただきたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (3) ホームページアクセス状況について

[資料：広報1]

#### (4) 女性の健康週間について

[資料：広報2]

①女性の健康週間2026のセミナー全体テーマおよび事前広告特集記事のテーマ、取材候補者について委員会内でアンケートを実施した。今後、取材候補者に依頼について打診する。セミナー全体テーマは「産婦人科医が教える 働く女性のヘルスケア最前線」をテーマ案としたい。

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### ②日本経済社と締結する業務委託契約書「第4条（講師派遣）」について

[資料：広報3]

**川名敬常務理事**「契約内容の見直しを行うこととし、現在事務局間で契約書を取りまとめて改定作業を進めている。その際、講師料や交通費を株式会社日本経済社側に負担させるよ

う求めるべきではないかとの意見が示された。具体的な事業内容としては、年に2～3名の講師に来ていただき、Web会場まで出向いて講演いただく程度の規模である。また、契約書の下部に赤字で記載されている部分については、通知がなければ従来どおり契約が継続し、変更がある場合には通知によって効力を発するという事務的な内容であり、これはマイナーチェンジである。以上を踏まえ、この契約見直しの方向性について承認をいただければ、株式会社日本経済社側にその旨を伝えて契約を進めたい。」

**万代昌紀理事長**「先方の事業に協力するという形式なので、講師料を負担してもらえないかということを出してみるということだ。時間が厳しいようであれば、今年は今までの形式で踏襲し、また1年かけて先方と交渉することでもよいと思う。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

#### (5) SNSによるイメージ戦略ワーキンググループについて

広報委員会が中心となり「SNSによるイメージ戦略ワーキンググループ」の設置に向けて教育委員会、未来委員会より以下の先生方を推薦いただいた。

井平 圭先生、金城泰幸先生（以上、教育委員会）  
田中孝太先生、新田 慧先生、藤岡磨里奈先生（以上、未来委員会）  
川名 敬先生、小出馨子先生、小松宏彰先生、梶山広明先生、砂田真澄先生、  
重見大介先生、宋 美玄先生（以上、広報委員会）

**川名敬常務理事**「一般の方、会員の方、リクルートという3つの柱をうまく使い、SNSとインスタグラムを使い分けながら、実際に今SNSを活用されている未来委員会の先生方の実績などもお示しいただきながら審議をしている状況である。」

#### (6) その他

丸田佳奈委員の広報委員会委員就任辞退、および向井勇貴先生（昭和医科大学）の広報委員会委員就任についてご承認いただきたい。

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

**鈴木直副理事長**「臨床倫理監理委員会で作成した動画について、色覚異常や視覚障害のある方にとって見分けにくい色が使用されているとの指摘があった。この点については、三浦先生と連携しながら改善策を検討していく予定である。また、動画に限らず、ウェブサイト全体を見直し、色覚バリアフリーの観点から見にくい配色が使われていないかどうかとも検討していく必要がある。PGTの動画も作り直す必要がある。」

**川名敬常務理事**「ホームページの制作会社の方とも担当の事務局の方ともよく相談し、確認していく。」

## 2) 医療制度検討委員会（亀井良政常務理事）

- (1) 令和7年度 厚労科研特別研究「安全な無痛分娩体制構築に関する研究」第2回検討会議（2025年8月28日）開催報告（研究代表者：北里大学名誉教授 海野信也先生）

[資料：医療制度検討 1, 2, 3, 4, 5]

**亀井良政常務理事**「無痛分娩の需要増加と麻酔科医不足により、経験の少ない施設が導入を始めたことで医療安全への不安が高まっている。さらに、今年春に麻酔関連の母体死亡が7例報告され、海外からの批判も強く、厚生労働省も注目している。研究班では産科と麻酔科で共通の基準を作る方針だが、麻酔科側は『麻酔担当医と分娩担当医を常に別に置くべき』と主張しており、現実的ではないとの懸念が示された。海外でも体制移行には10年を要した経緯があり、海外でも移行には時間がかかったことを理解すべきであると研究班で発言した。急速かつ拙速な変革を進めれば、不利益を受けるのは産科医と患者であるとの懸念が示され、今後の課題として議論が続けられている。また、出産費用の無償化については、来週から厚生労働省との面談が開始され参加する。逐次経過を報告する。」

**布施泰子理事**「現状では何割が麻酔科による麻酔で何割が産科医による麻酔か。」

**亀井良政常務理事**「正確な数字は分からないが、2割程度が麻酔科による麻酔であり、多くが産科医による麻酔を行っている。」

**布施泰子理事**「今麻酔科医が主導でやっているのにこれから産科医が増えていくとかいうことではなく、現状、産科医の先生が兼ねておられるということか。」

**亀井良政常務理事**「ご認識のとおりである。ただ、産科麻酔を専門にしておられる先生はさほど多くなく、提供体制としてはまだ確立していないと思っている。」

**万代昌紀理事長**「JALAの最後の提言に『麻酔担当医と分娩担当医を兼ねるべきではない』といったことが書いてあるが、これは例えば産婦人科が2人いて、1人が自分は麻酔担当だということもありうるのか。経過について、引き続き情報共有いただきたい。」

### 3) 災害対策・復興委員会（井篁一彦理事）

#### (1) 会議開催

第2回 災害対策・復興委員会（WEB開催）	8月26日（火）17:00～19:00
-----------------------	---------------------

#### (2) 災害対応

以下の災害が発生し、委員会メンバー等に連絡を取り、適宜被害状況の確認を行い情報共有が行われ、被災地域の分娩施設等に影響はないことを確認した。

- ・7月30日 トカラ列島近海を震源とする地震に伴う太平洋側の津波警報
- ・8月6日～8月12日 低気圧と前線による大雨

#### (3) PEACE 訓練時の利用申請：12件

(4) 第4回超党派医療的ケア児者支援議員連盟総会（2025年6月11日）において、津田尚武委員が「PEACE」に関する講演を行い、国として支援を推進して欲しい旨も併せて伝えることができた。

講演は、陪席いただいた岐阜県総合医療センター 新生児内科の寺澤大祐先生より、災害時に小児・周産期医療の現場で使用されるシステムに関する課題が提起され、それを受けて津田委員から「PEACE」の有用性と課題について詳細に説明を行った。これにより、野田聖子議員、自見はなこ議員をはじめ多くの参加された議員および関係省庁（内閣府、厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁、総務省）の方々に、現場の課題と「PEACE」の意義を広く周知できた。

[資料：災害対策1]

万代昌紀理事長「少なくとも認識はしていただけたということで、一步前進し、非常に良かったと思う。次のアクションは何か考えているか。例えば具体的な要望書を出す、補助が欲しいなど、良いチャンスのような気がするがいかがか。」

井篁一彦理事「管理を全て先方をお願いするということは、相当ハードルが高い。まずは、E-MIS との連携で、国側からの予算もある程度出していただける可能性はあると担当官からも言っていたので、要望書の提出などから着手していきたい。」

(5) 災害時小児周産期リエゾン協議会総会（7/15 開催）の活動報告

岩橋主務幹事が災害時小児周産期リエゾン協議会総会で、昨年度の本委員会の活動内容（災害時の対応、PEACE 改修、PEACE 訓練利用、行政へのアプローチなど）について報告を行った。

(6) 4 団体連絡会での PEACE の説明・周知

日本産婦人科医会と日本看護協会、日本助産師会、日本助産学会の 4 団体で行われる連絡会において、松田委員がリニューアルした PEACE について助産師や看護師向けの説明も含めて周知を行った。

(7) PEACE 改修について

委員会で改修内容の精査を行い、SMS 通知内容見直しによる改修および EMIS 連携改修を進めている。

4) 診療ガイドライン運営委員会（小林陽一理事）

(1) 会議開催

第 25 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	8 月 28 日
第 26 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	9 月 8 日 【予定】
第 27 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	9 月 25 日 【予定】
第 28 回診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会（WEB 開催）	10 月 23 日 【予定】

(2) 産婦人科診療ガイドライン 2023（電子版付き書籍）販売状況

	6 月販売数	7 月販売数	8 月販売数	累計販売数
産科編	81	39	38	17,152
婦人科外来編	35	33	21	11,881

(3) 産婦人科診療ガイドライン 2026 コンセンサスマーティングについて

■産科編（全 4 回開催）

	日 時	会 場
第 1 回 <終了>	2025 年 4 月 13 日(日)	(単独開催) トラストシティ カンファレンス・丸の内
第 2 回 <終了>	2025 年 5 月 23 日(金)	(第 77 回日本産科婦人科学会学術講演会) イオンモール岡山 5F おかやま未来ホール
第 3 回 <終了>	2025 年 6 月 14 日(土)	(第 149 回関東連合産科婦人科学会学術集会) 都市センターホテル

第4回 <終了>	2025年7月15日(火)	(第61回日本周産期・新生児医学会学術集会) 大阪国際会議場
-------------	---------------	-----------------------------------

■婦人科外来編（全2回開催）

	日時	会場
第1回 <終了>	2025年5月23日(金)	(第77回日本産科婦人科学会学術講演会) イオンモール岡山 5F おかやま未来ホール
第2回 <終了>	2025年6月15日(日)	(第149回関東連合産科婦人科学会学術集会) 都市センターホテル

(4)産婦人科診療ガイドライン 2026 パブリックコメント実施について

産科編と婦人科外来編それぞれ、HPに全CQ&Answer原案を数回に分けて掲載のうえパブリックコメントを実施している。

(5)診療ガイドライン産科編の推奨度の変更について [資料：診療ガイドライン1-1,1-2]

**小林陽一理事**「こども家庭庁からの依頼で、分娩無償化あるいは保険化に関して関沢先生を中心に検討している。この内容が分娩無償化あるいは保険化に対して重要な資料になりうる。それに関する推奨度が、現在作成している診療ガイドライン産科編のものと少し異なるので、どのようにしていくべきかご意見をいただきたい。」

**関沢明彦副理事長**「妊産婦健診で行う検査について、最新のエビデンスを整理するというこども家庭庁の研究班を担当している。妊産婦健診については、厚生労働省が望ましい基準というのを出しており、その望ましい基準が、妊産婦健診における公費補助の基準になる。今回は、研究班でこの望ましい基準を、最新のエビデンスをもとに再評価するとともに、ここに含まれない検査についても、どのようなエビデンスであるかが分かるようなサマリーを作ることが課題となっている。昨年、成果物として40項目以上の検査について、レビューをして報告書として提出した。4月急に、内容をチェックすると申し出があり、3、4か月かけて修正版が確定し、8月に報告書として厚生労働省のサイトに掲載された。厚生労働省とかこども家庭庁の指摘は非常にサポートティブであり、保険収載を念頭にいかに様々な検査ができるようになるかに配慮いただいていた。報告書ができた段階で産婦人科のガイドラインとの整合性を確認して欲しいとのことである。」

**小林陽一理事**「検査の重要性について、診療ガイドラインでは推奨度ということになり少し異なる。これらをどう調整するか。」

**三浦清徳常務理事**「これまで産科編の基本的な記載事項は、全国の80%以上の施設で実施、あるいは80%以上の産科医が実施している医療行為についてガイドラインに記載するという原則が、2008年版から一貫して継続されている。この作成委員会は、産婦人科医会と日本産科婦人科学会から推薦された委員によって運営されている。作成委員会で原案を作成した後、評価委員会で査読を受け、その結果を踏まえてコンセンサスマーティングを4回開催し、推奨レベルを含め改定を行ってきた。今回、今後の保険診療や無償化を見据えた関沢班の報告書が提出され、それをもとに制度設計が進められる可能性があるとの打診があった。そのため、作成委員会としてもパブリックコメントを経て、齟齬がある部分について再検討することになった。例を挙げると、妊産婦健診における血圧測定、尿検査、体重測定、胎児心拍確認といった基本的項目について、コンセンサスマーティングでは推奨レベルBとされている。『推奨レベルA』は『よほどの理由がない限り必ず実施すべき』とされるが、これらは現状Bでの合意となっている。今後の保険化、無償化を想

定して、関沢班のパブリックコメントを受けて例えば妊産婦健診では血圧測定などは『推奨レベルB』をAに変更することや、鉄欠乏性貧血が認められた場合、経口鉄剤を補充するという基準がHg:11.0g/dl やHg:10.5g/dl の意見があり、作成委員会では『推奨レベルB』として提示したが、コンセンサスマーティングではCに変更された。ただし地域によっては介入基準が異なり、無償化や保険診療の観点からは再びBとすべきではないかという意見もある。現行ルールでは、作成委員会が80%以上の賛成があれば推奨レベルを変更できるが、これまで4回のコンセンサスマーティングを経てCとされたものを、Bに引き上げてよいのかどうかという点は議論を要する。追加でコンセンサスマーティングを開催するか、あるいは再度パブリックコメントを実施する必要があるのか、委員会の裁量として変更して良いかについて、本日議論をお願いしたい。」

**万代昌紀理事長**「本ガイドラインは本会が学術的に作成しており、『推奨レベルA』にすると、これを実施していない場合、何かの裁判になった際にデメリットになる可能性があり、なかなか『推奨レベルA』がつけにくい。一方、厚生労働省から『推奨レベルB』だとあまり推奨していないのではないかと理解され、保険診療にするのであれば『推奨レベルA』ではないのかと厚生労働省は求めてくる。『推奨レベルA』としておきながら、注釈として、日本では保険診療で認められていないので、今後保険で認めていくべきであるといった文章を記載するなど検討する必要があるかもしれない。」

**小林陽一理事**「ガイドラインがある程度完成しつつある段階で推奨レベルを変更するには、もう一度パブリックコメントあるいはコンセンサスマーティングを行うのかという問題が出てきており、医会との相談も必要となってくる。本委員会の中で決めて実行していくことでよいかを確認したい。」

**三浦清徳常務理事**「推奨度を変更するときには、医会と学会の合議がないといけないと思う。」

**万代昌紀理事長**「『推奨レベルA』に変えても誰も困らない内容であればAに変えるべきだし、CからBに変えた方が今後の保険適応に向けてよいと思われるが、施設によってできない検査の推奨レベルを上げると、それが実施できない施設に不都合となる。ある程度医会も含めて、先生方にお任せするしかないのかなと思う。」

**関沢明彦副理事長**「日本産婦人科医会でも議論する。」

**万代昌紀理事長**「対応については、コンセンサスマーティングを実施するかどうかも含めて委員会一任とし、後日報告いただくということをお願いしたい。」

**小林陽一理事**「医会の意見が非常に重要になってくるので、それとすり合わせをしていく。」

本件に関して特に異議はなく、診療ガイドライン運営委員会に一任する方針で承認された。

## 5) コンプライアンス委員会（齋藤豪理事）

### (1) 本会役員等へのCOI自己申告書の提出依頼について

年に一度実施している役員・委員の先生を対象としたCOI自己申告書の依頼を開始した。提出期限は2025年10月31日迄としている。期限内の提出にご協力をいただきたい。  
(申告対象期間：2022年1月1日～2024年12月31日分)

**万代昌紀理事長**「COIの申告を忘れないようにお願いしたい。」

6) サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (齋藤昌利理事)

(1) 会議開催

第2回サステイナブル産婦人科医療体制確立委員会 (Web開催)	8月12日(火)
------------------------------------	----------

(2) 『総合周産期特定集中治療室管理料 母体・胎児集中治療室管理料の改正についてのお願い』(要望書)の提出について

全国周産期医療(MFICU)連絡協議会、本会、日本産婦人科医会、日本周産期・新生児医学会の連名で、標記の要望書を厚生労働省保険局医療課長 林 修一郎氏に提出した。本会からは万代昌紀理事長が同席した。

要望の場では、MFICU連絡協議会の海野 信也代表幹事が、現在地方の比較的小規模な総合周産期母子医療センターでMFICU管理料が算定できない現状について説明を行い、状況の打開に向けて「母体・胎児集中治療室管理料」に係る規定の抜本的な改正の実施をお願いした。  
[資料: サステイナブル1]

(3) C-2 水準申請について

令和7年度第2回審査委員会への申請を受け付けており、締切は9月18日(木)までである。(第2回審査委員会は10月を予定)

万代昌紀理事長「要望の内容はMFICUを何段階かにわけて、0か1かではない状況にしたいという内容で問題ないように思ったが、MFICUと本会の周産期の先生方との間でどれくらい連携がとれているのか。」

関沢明彦副理事長「団体としては協議会で全国のMFICUを中心にやっていただいて問題ない。」

亀井良政常務理事「事前にお話しいただいた方が良かったが、内容としては何の不足もない。」

7) 産婦人科未来委員会 (谷口文紀理事)

(1) 会議開催

第2回産婦人科未来委員会 (Web開催)	9月 1日 (月)
若手委員選考会 (現地開催)	10月 8日 (水) 【予定】
若手委員交代式 (現地開催)	11月 14日 (金) 【予定】

(2) サマースクール(SS)

=====

第19回産婦人科サマースクール

開催日程 : 2025年8月23日(土)~24日(日)

会場および開催形式: アートホテル大阪ベイタワー (現地開催)

内容 : 実技実習(分娩・産科外科手技・超音波、生成AI)、臨床推論、未来相談会

対象者 : 医学生 5~6 年生、臨床研修医 1 年目  
参加者 : 321 名 (医学生 5~6 年生 : 180 名、臨床研修医 1 年目 : 141 名)  
チューター : 72 名

---

全国から多くの参加者を受け入れ、懇親会も開催し成功裡に終了した。新規企画として実施した生成 AI 実習の成果物については、今後 HP への掲載を予定している。参加者およびチューターへの事後アンケートは現在解析中である。今回は、2026 年 8 月 22 日 (土) ~23 日 (日) の日程で、同じくアートホテル大阪ベイタワーで現地開催する。近年、運営経費の増加が顕著となっている。前年度に引き続き委員長・副委員長・前副委員長がサマースクール運営補助の寄附金を募り、全国 33 の医療施設より総額 510 万円のご支援を賜った。委員長・副委員長の負担軽減のため、今後は各理事におかれても 2 施設程度を目安に寄附金のご協力をお願いしたい。詳細は 12 月の理事会にて提示予定である。 [資料 : 未来 1]

谷口文紀理事 「2 週間前に行われたサマースクールの様子の動画をご覧いただきたい。」

谷口文紀理事 「会場費の高騰や懇親会費用を賄うために、寄附を依頼しているが、地域差があったり、人的派遣を実施しているところや知り合いに偏っている状況であるため、このサマースクールを維持していくためにも、各理事の先生にもご支援をお願いしたい。詳細はまた 12 月の理事会で提示させていただく。何卒ご協力をお願いしたい。」

万代昌紀理事長 「若者のパワーを感じて非常によくできたイベントであった。これだけのイベントを、コンベンション会社を使わずに実施できるというのは、次世代の産婦人科の育成という意味でも非常に意味のあるイベントであり、実施効果も高いと思う。本会の予算から出すのが筋ではあると思うが、目的がはっきりしたイベントは理解が得られ易いと思うので、サマースクールなどに継続的に寄附いただけるような仕組みを作れたらと考えている。また、谷口先生に依存しすぎると委員長が交代した時に次の委員長への負担にもなってしまうので、岡本先生の WG とも相談しながら寄附を募る方向性を考えていきたい。今年は今まで最高の人数が集まったということもあり、非常に優れた内容だった。運営いただいた先生方に感謝を申し上げたい。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) Welcome to OBGYN World! (WOW!)

---

第 5 回 Welcome to OBGYN World!

開催日時 : 2025 年 10 月 25 日 (土) 14 : 00~17 : 30 (予定)

開催形式 : ハイブリッド形式 (各大学での現地参加を推奨)

対象者 : 医学部医学科 1~4 年生

募集人数 : 250 名 (予定)

参加大学・チューター : 専攻医 3 年目~医師 10 年目程度 (目安) 各大学 2 名程度

目的 : 産婦人科領域への興味付け、各大学の学生とチューターとの繋がりを深める

---

参加者募集は 9 月 26 日 (金) まで募集期間を延長する。各大学からは是非ご協力をいただきたい。(9 月 4 日時点、チューターは 56 大学・98 名、参加者は 41 大学・108 名)

(4) スプリングフォーラム (SF)

第 16 回スプリングフォーラム

開催日程：2026 年 2 月 28 日（土）～3 月 1 日（日）

会場および開催形式：びわ湖大津プリンスホテル（現地開催）

対象者：卒後 6 年目から 20 年目程度の産婦人科医師

現在はテーマの決定、講師の選定を進めている。

(5) Plus One Project2 (POP2)

第 10 回 Plus One Project2

開催日程：2026 年 4 月 25 日（土）～26 日（日）

会場および開催形式：パシフィコ横浜ノース（現地開催）

内容：実技実習（分娩・産科外科手技・腹腔鏡・超音波、ロボット）、未来相談会、  
講演会（予定）

対象者：臨床研修医 2 年目

参加者：180 名（予定）

チューター：50 名（予定）

次回の日時・会場が決定し、本年と同じくパシフィコ横浜ノースにて開催予定である。

(6) 次期若手委員の募集

任期：2025 年 11 月から 2 年間

募集人数：10 名

応募資格：医学部卒業が平成 28 年～平成 31 年の方

受付期間：2025 年 8 月 25 日（月）～9 月 15 日（月）

8 月 25 日から募集を開始した。応募資格に該当する方には是非周知をお願いしたい。

谷口文紀理事「次期若手委員の募集を行う。全部で 20 名おり、2 年間の任期で、1 年ごと 10 名入れ替わる。この募集が開始しているので、ぜひともリクルートに率先できるような方、熱心な方にご参加いただきたい。去年は大体募集人数の 2 倍ぐらいの応募があった。」

(7) 2025 年度新専攻医におけるリクルートイベントの効果判定について

産婦人科未来委員会が開催したリクルートイベントの、2025 年度新専攻医募集への影響を検証することを目的として効果判定を実施した。 [資料：未来 2]

谷口文紀理事「例えば、POP2 に来てもらった参加者のうち 8 割以上程は、サマースクールの参加者で医学部 5 年、6 年、臨床研修 1 年目では 6 割 3 分程は産婦人科を専攻してくれている。皆さんの努力が実を結んでいるのではないかと思う。地方からすると、全部都心に学生が希望するのではないかと危惧していたが、資料のとおり、都会に出ていく学生研修

医が増えているわけではないこともわかったので、引き続きイベントを頑張っていきたい。」

万代昌紀理事長「医学部6年生あたりで専攻を決める人が割と多いのかなという印象だ。6年生のときに参加していただいた方の6割が入局しており、研修医1年目になっても持続されているということだと思う。イベントに参加したことがある人が入局者の半分を占めていることを考えても、非常に重要なイベントではないかと思う。今後もよろしく願いたい。」

#### (8) 次期若手委員 委員長・副委員長

若手委員会の内規に沿って選挙を行い、次期若手委員長に大阪大学・小林 まりや先生、若手副委員長に京都府立医科大学・青木 康太先生が選出され、未来委員会で承認された。

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

### 8) 医療安全推進委員会（吉野潔理事）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、令和7年6月、7月の医療事故調査制度現況報告を受領した。 [資料：医療安全 1-1, 1-2]

(2) 一般社団法人日本医療安全調査機構 医療事故調査・支援センターから、令和7年度センター業務における「協力学会（日本産科婦人科学会）担当者リスト」作成依頼を受領した。資料に記載の先生方よりご快諾頂き、本会より同センターへ推薦した。

[資料：医療安全 2]

(3) 昨年11月に三重県の某総合病院より「事例検討に係る外部専門家の推薦依頼」を受領した。当時の委員会判断で本会としての派遣はお断りしたが、本事案について適当な産婦人科医師を探して紹介することは可能かもしれない旨を回答した。今年7月に再度同病院より同案件に関する症例検討についての医師紹介依頼を受領し、前委員会の判断を踏襲のうえ「個人的」に医師を紹介した。 [資料：医療安全 3]

吉野潔理事「前キャビネットの委員会の判断も踏襲して、『個人的』に香川大学の金西賢治先生を紹介することとした。」

### 9) 公益事業推進委員会（中島彰俊理事）

(1) 会議開催

第1回公益事業推進委員会（WEB開催）	7月30日
---------------------	-------

(2) 本会紹介リーフレット更新について

本会紹介リーフレットを今年度用に更新する。寄附金のご支援をお願いする企業の選定を含め、効果的なアプローチ方法について現在検討を進めている。 [資料：公益事業 1]

中島彰俊理事「昨年度のリーフレットをもとに、今年度用へ更新しているが、リーフレットに掲載する順番を、女性のヘルスケアを筆頭に少し入れ替えた。少しでも多くの企業の方にリーチできるような形でリーフレットを更新していきたい。また、なるべく女性の健康などに注力されているような企業を中心に選定していく予定だ。」

(3) 株式会社エムティーアイ様より寄附金を頂戴した。

## 10) 臨床研究審査委員会（廣田泰理事）

### (1) 会議開催

2025 年度第 1 回臨床研究審査委員会（ウェブ開催）	9 月 1 日
------------------------------	---------

### (2) 臨床研究審査報告

#### 【旧指針】

- ① 新規申請 0 件
- ② 変更申請 0 件
- ③ 終了申請 0 件

#### 【人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針】

##### ① 新規申請 3 件

- ・ 三重大学医学部附属病院 産婦人科 講師 二井 理文会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会周産期データベース使用申請として承認された「日本産科婦人科学会周産期登録データベースを用いた心大血管疾患合併妊婦の周産期転帰に関する研究」について新規申請があり、審査の結果、2025 年 7 月 2 日に審査結果を報告した。

[資料：臨床研究 1]

- ・ 国立成育医療研究センター 産科診療部長 小川 浩平会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会周産期データベース使用申請として承認された「本邦における無痛分娩の転帰に関する解析」について新規申請があり、審査の結果、2025 年 8 月 14 日に審査結果を報告した。

[資料：臨床研究 2]

- ・ 関西医科大学附属病院 産科 教授 森川 守会員より研究申請があり、日本産科婦人科学会周産期データベースならびに ART データベース使用申請として承認された「ART 妊娠の周産期予後の解明ならびに生殖医療と周産期医療の連携構築」について新規申請があり、審査の結果、2025 年 9 月 4 日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究 8]

廣田泰理事「データベースの突合に関する案件があり、どの程度ペアが形成できるかが問題となった。ART 登録と周産期登録では約 8 割が突合可能であるとのデータがあり、その点を記載することで対応した。ただし、科学的妥当性や合理性の検討が必要であるため、今後は各専門委員会に依頼し、委員会としての方針を確認した。」

万代昌紀理事長「過去に当委員会では、データベースの突合について議論した経緯がある。突合を進めていくと最終的に個人情報、さらには個人名にまで行き着く可能性があるのではないかと懸念が示され、どこまで突合を許容するかについて結論が宙に浮いたままの部分が残っている。当時は、利用範囲を限定する案を提示いただいたり、場合によっては

危険性を理由に申請を断ったりした事例もあった。また、山上先生の委員会と共に検討していただきたい。」

**廣田泰理事**「本会以外のデータベースとの突合はしないということにはなっているので、この突合自体が倫理的に適切かどうかを本委員会でも検討させていただきたい。」

**山上亘特任理事**「本会のデータベースは個人情報との突合を想定せずに収集されている。本来、周産期登録と生殖登録を突合させる場合、施設に戻して個人情報を利用すれば高精度での突合は可能である。しかし、個人情報を直接利用できないため、研究者側でその制約を踏まえた突合方法を検討し、今回の研究手法に至ったと理解される。突合を行っても個人情報に至らない仕組みを構築すれば、個人情報保護の懸念も解消できる可能性がある。この点については委員会として引き続き検討していく方針である。」

## ② 変更申請 5件

- ・東京女子医科大学足立医療センター産婦人科 特任教授 橋本 和法会員より、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍データベースの使用が許可された「早期子宮体癌症例における治療予後を予測する機械学習モデルの構築と検証」について変更申請があり、審査の結果、2025年7月25日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究3]
- ・横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター 助教 小嶋 朋之会員より、日本産科婦人科学会周産期データベースの使用が許可された「日本における妊娠女性の体重増加目標値変更後の体重増加の観察研究」について変更申請があり、審査の結果、2025年8月12日に審査結果を報告した。 [資料：臨床研究4]
- ・順天堂大学医学部附属順天堂医院産科・婦人科・准教授 竹田 純より、日本産科婦人科学会周産期データベースの使用が許可された下記研究について変更申請があり、審査の結果、2025年8月12日に審査結果を報告した。
  - 「妊娠中の体重増加量の推奨値の変更による母児の周産期予後に関する研究」 [資料：臨床研究5]
  - 「糖代謝異常妊婦の妊娠中の至適体重増加の検討」 [資料：臨床研究6]
  - 「多胎妊娠女性の妊娠中の至適体重増加の検討」 [資料：臨床研究7]

## ③ 終了申請 0件

# 11) 感染対策連携委員会（金西賢治理事）

## (1) 会議開催

第1回 感染対策連携委員会（Web開催）	7月22日
----------------------	-------

- (2) 妊婦に対する新型コロナウイルスワクチン接種について [資料：感染対策1～3]  
7月31日に掲載した一般向け、および会員向けのお知らせの補足として、8月21日に再度お知らせを掲載した。

**金西賢治理事**「厚生労働大臣の発言が一部切り取られて『妊婦には推奨しない』と報道され、本会にも問い合わせが寄せられた。従来、本会は新型コロナワクチンを妊婦にも推奨する立場を示していたが、近年新たな文書を発出していなかったこともあり、7月31日

付で、妊婦全員に一律推奨するのではなく、内科的合併症などリスクの高い妊婦にはこれからも接種を推奨するという文書を、会員向け・一般向け双方に発出した。その後、日本ファクトチェックセンターから質問が寄せられ、常務理事会でのメール審議を経て8月21日に改訂版を発出した。改訂版では、妊婦全体に一律推奨しない一方で、個別のリスクに応じて妊婦本人と主治医が十分に話し合い、接種を判断することを強調した。本会としては科学的立場から『リスクに応じて推奨する』という姿勢を改めて明確に示したものである。」

- (3)RS ウィルス母子免疫ワクチン(アボリスボ<sup>®</sup>筋注用)を接種した妊婦への注意点について、本会 HP に改定版を掲載したい。 [資料：感染対策 4,5]

**金西賢治理事**「当初、本会の文書では『母体にワクチンを接種した場合、生まれた児への抗体製剤の投与は推奨しない』としていた。これに対し、日本小児科学会からは『症例によっては小児科と相談のうえ投与を検討する』との立場が示され、ガイドライン上もそのように扱われている。このため、新たに提示した文書では表現を修正した。具体的には『乳児』を『赤ちゃん』とするなど一般に分かりやすい表現に改めるとともに、母体にワクチンを接種した場合でも、小児科医と相談のうえ抗体製剤の投与を検討する場合がありますと変更した。本修正は一般向け・会員向けとも同様に反映されており、了承が得られればホームページで公開し、併せて記者会見でも発表する予定である。」

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 12) セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進委員会 (角俊幸理事)

### (1) 会議開催

令和7年度第1回セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進委員会	8月7日
--	------

- (2) こども家庭庁成育局母子保健課より、令和7年度健やか親子21全国大会(母子保健家族計画全国大会)への後援名義の使用依頼書を受領した。例年のことであり経済的負担もないことから応諾した。 [資料：SRHR 推進 1]

- (3) 令和7年度に本会 HP の委員会情報のコーナーに掲載予定している「委員会だより」(会員専用ページ) について

No.8『女子スポーツ選手における SRY 遺伝子検査について』

No.9『教育現場における性に関する現状』

- (4) 来年の第78回学術講演会の際に開催する本委員会企画のテーマを『考えよう、進めよう、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR)』とし、企画内容を検討している。

**角俊幸理事**「この SRHR の啓発が本委員会の目的のため、特に専攻医や臨床医の先生など、臨床の現場で知っていたほうが診療に役立つと思われる方を対象に、委員会企画として講演

をさせていただきたい。基本的な内容として総論と、各論のパートに分けて委員会企画を予定している。」

### 13) ダイバーシティ・人材育成推進委員会（山本英子特任理事）

#### (1) 会議開催

ダイバーシティ・人材育成推進委員会 キックオフミーティング（WEB 開催）	7月29日
--	-------

#### (2) 日本・アジアの産婦人科医師を対象とした「働き方とジェンダーバイアスに関する調査」

[資料：ダイバーシティ 1]

・ AFOFG との共同研究の進捗状況は以下の通り（質問票 1 = 学会構成員などの調査票）。

国と学会名	担当者決定	質問票 1 回答	IRB 提出	IRB 承認	調査開始
フィリピン POGS	✓	✓			
オーストラリア・ ニュージーランド RANZCOG	✓				
パキスタン SOGP	✓	✓			
マレーシア OGSM	✓				
韓国 KSOG	✓	✓	✓	✓	
台湾 TAOG					
タイ RTCOG	✓	✓	✓		
スリランカ SLCOG	✓				

・ 9月5日の AFOFG Council Meeting において加藤聖子先生が共同研究について発表する予定である。

**山本英子特任理事**「各国代表者と徐々に対応を進めているところで、進捗はこの表の通り。一番早く進んでいるのは韓国で、承認をいただいて実際にデータ収集を開始するところまでできている。」

**万代昌紀理事長**「本件の成果物は、おそらく論文としてジャーナルにご提出いただく形になるのではないかと思うが、その前段階として、日本国内での調査がすでに実施され、今後は提言という形などになっていくのか。」

**山本英子特任理事**「日本の調査結果はまだ今分析をしているところで、AFOFG のデータも来年の2月ぐらいまでにはデータ収集を終えて全部集まったところで解析を行う予定だ。調査結果に基づいて何か提言が本会や AFOFG でもできたら良いと考えている。」

#### (3) 第 78 回日本産科婦人科学会学術講演会 委員会企画について

・ 男性医師の育休取得をテーマに「男性医師の育児休暇取得を考える—推進・実践・制度からのアプローチ—（仮）」という講演を企画している。演者は、三浦崇先生（長崎大学心臓外科・教授）、吉田康将先生（名古屋大学産婦人科・助教）、板井俊幸先生（横浜市立大学産婦人科・助教）を予定している。

#### 14) 公的プラットフォーム設立連携委員会（蜂須賀一寿主務幹事）

##### (1) 会議開催

第1回公的プラットフォーム設立連携委員会（ハイブリッド開催）	8月29日
--------------------------------	-------

(2) キックオフ会議を開催し、鈴木直副委員長から「日本産科婦人科学会によるこれまでの取り組み」、PGT-M 審査小委員会の佐々木愛子委員長から「日本産科婦人科学会における PGT-M 審査体制について」、日本医学会「遺伝子・健康・社会」検討委員会の杉浦真弓委員から「日本の着床前遺伝学的検査 PGT の歴史と今後の課題」、同委員会の高田史男委員から「公的プラットフォーム設立の目的解釈と課題の整理及び情報共有」の報告をいただき、今後の委員会の活動について協議を行った。

##### (3) 日本医学会に提出した要望書の件について

- PGT-M 審査委員会の上部組織の設置に関する要望書を日本医学会に提出した件について、日本医学会から回答があった。 **[資料：公的 PL1]**
- PGT-M に日本医学会にも関与してほしいとの要望に対する日本医学会の対応案について、分科会の意見をまとめた通知が日本医学会からあった。 **[資料：公的 PL2]**

**蜂須賀一寿主務幹事**「9月8日に PGT-M 審査結果報告が行われるが、今後日本医学会でもチェックされるので、送付書類や、今後の進行方法について、具体的な協議を進めている。」

#### 15) データベース管理・利活用に関する検討委員会（山上亘特任理事）

##### (1) 会議開催

令和7年度第1回データベース管理・利活用に関する検討委員会 (WEB 開催)	8月6日
令和7年度第2回データベース管理・利活用に関する検討委員会 (WEB 開催)	11月10日 <b>【予定】</b>

**山上亘特任理事**「本資料には記載していないが、理事会に意見を求めたい事項がある。それは、学会収入を増やす方策として、データベースの商用利用の可能性をどう考えるかという点である。企業への提供は大きな収入源となり得るが、現時点では婦人科腫瘍登録などにおいて商業利用を前提とした同意は得ておらず、また公益社団法人としての性質を踏まえると慎重な判断が求められる。この方向性について理事会としての意見を伺いたい。」

**万代昌紀理事長**「本件はやや難しい論点を含むが、今後の方向性としては進めていくべき課題であると考えている。公益法人である以上、本会として直接的に営利を目的とするのは適切ではないが、サステイナブルな運営を考えると、データベース運用に投入しているリソースをある程度回収することは必要ではないかと考える。その方向で議論を続けて欲しい。各データベースが個々でサステイナブルに動いていけるような状況になるよう、それぞれデータベースの性格が違うので、それをある程度一括して委員会で検討いただきたい。そのためには各領域が持っているデータベースの改修等の予定や方向性などの情報をぜひ山上先生に伝えていただきたい。」

**鈴木直副理事長**「本会が、公益社団法人として利益を得ると報告はしていない中で、内閣府にこれから転載許諾料の額も含めたところを相談していくと聞いている。一つの方策とし

て本件も考えても良いと思ったが、その際に内閣府を通じて事前相談をしなくてはいけないと思う。」

**万代昌紀理事長**「同じ公益法人でも収益事業を行うことにつき、内閣府にあらかじめ届け出をしておく必要があるようだ。本件を進めていくのであれば、それも仕組みとして本会の方から内閣府に届け出することも検討が必要だろう。また鈴木先生と一緒に検討していきたい。例えばデータベースを、賛助企業みたいな仕組みを作り、それにランク ABC 付けしたときに A ランクの企業であればこれを優先的に使えるようにするなど、いろんな仕組みが考えられると思う。引き続きご検討のほどよろしくお願ひしたい。」

(2)「データベース管理小委員会規約」の廃止と、「データベース管理・利活用に関する検討委員会規約」の新規制定について **[資料：データベース 1, 2]**

本件に関して特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3)3 登録事業の研究実施計画書の改定について

- ・新指針への移行審査（書面審査）は東北大学病院臨床研究倫理委員会で行われ、8 月 18 日に承認を得た。
- ・新指針適用修正兼研究組織変更申請は 10 月 28 日に予定している。

(4) UMIN への表敬訪問について

以 上